

慶應義塾大学
理工学部
研究テーマ集

2017 年度発行版



目 次

▶ 機械工学科	1
▶ 電子工学科	7
▶ 応用化学科	9
▶ 物理情報工学科	12
▶ 管理工学科	15
▶ 物理学科	18
▶ 化学科	20
▶ システムデザイン工学科	21
▶ 情報工学科	25
▶ 生命情報学科	30



慶應義塾先端科学技術研究センター (KLL) の役割

KLL は、理工学部・理工学研究科における産学官連携を推進する窓口として、研究成果が特許化される前段階の「萌芽的」レベルでの研究連携を推進しています。

1 受託 / 共同研究に向けたコーディネート (リエゾン機能)

2 産業界や公的機関との受託 / 共同研究などの連携プロジェクトの推進・支援

- 研究契約サポート
- 研究スペースの提供

3 研究成果の社会還元

- 慶應科学技術展 (KEIO TECHNO-MALL)
- KLL 産学連携セミナー・地域での情報発信

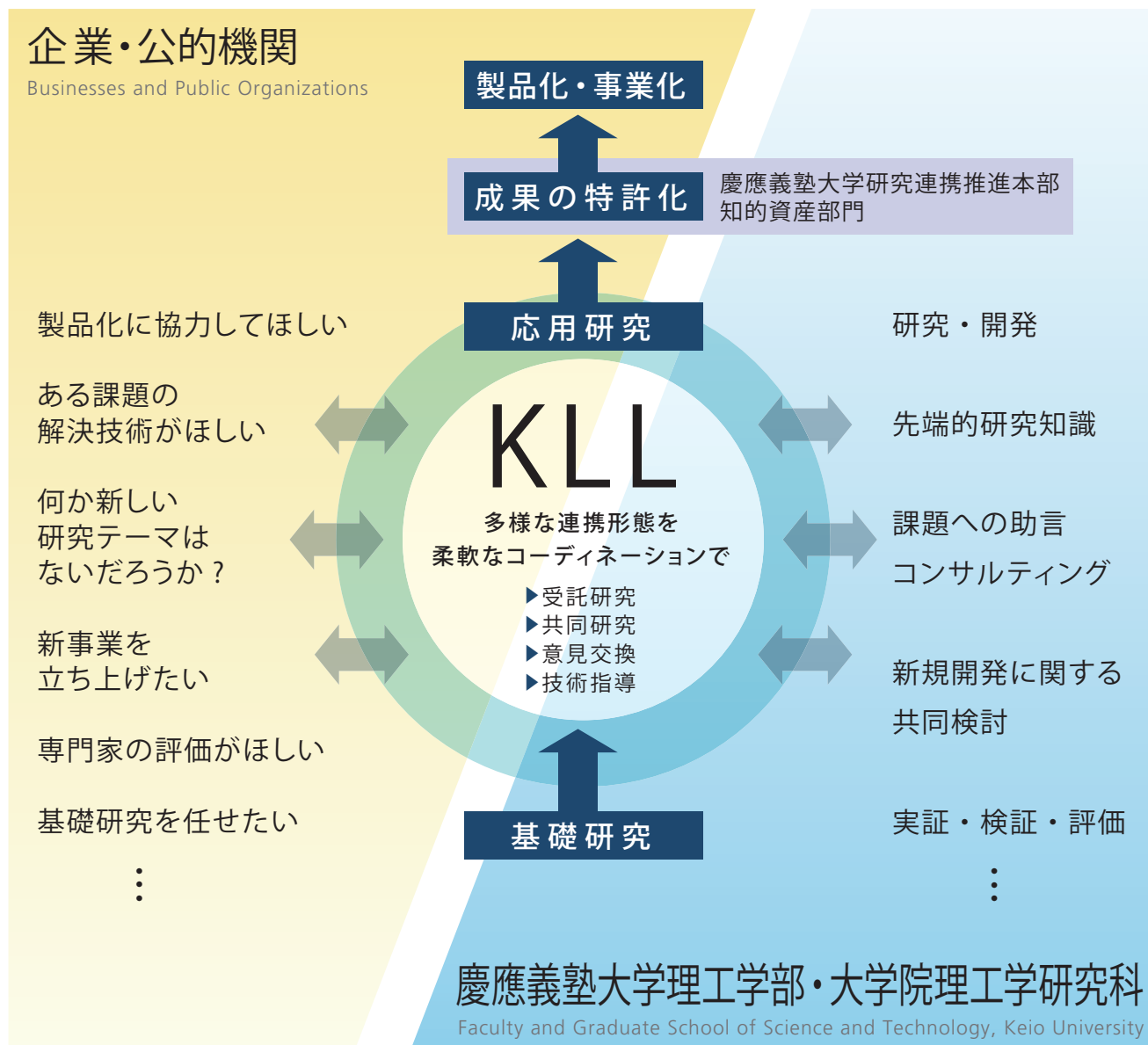
4 萌芽的・独創的研究の支援

- 指定研究プロジェクト 一次世代先端分野探索研究一
- 前期・後期博士課程学生への研究助成





KLLにおけるコーディネート（リエゾン機能）の特徴



また他キャンパスとの横断的研究や、成果の特許化についても慶應義塾大学研究連携推進本部の研究推進部門や知的資産部門と協力して対応いたします。

❖ 研究コーディネーションに関するお問い合わせ

KLL ▶ TEL : 045-566-1794 / e-mail : staff@kll.keio.ac.jp
KLL ホームページ ▶ <http://www.kll.keio.ac.jp/coordinate/index.html>





教授
高野 直樹
タカノ ナオキ
博士(工学)
Professor
TAKANO, Naoki
Doctor of Engineering

計算力学/確率的マルチスケールシミュレーション/
先進複合材料/アディティブマニュファクチャリング/バイオメカニクス

有限要素法(FEM)による計算固体力学分野で、特に不確かさ(uncertainty)のマルチスケールモデリング・シミュレーション法の開発とその妥当性確認(validation)の研究を軸として、複合材料のミクロ構造設計、アディティブマニュファクチャリング、個体差を考慮した生体硬組織、軟組織の解析と医療デバイス設計への応用を図っています。

In the field of computational solid mechanics using finite element method (FEM), our main activities are to develop stochastic multiscale modeling and simulation methodologies considering uncertainties and their validation, with applications to microstructure design of composite materials, additive manufacturing, analysis of biological hard tissues and soft tissues considering inter-individual differences and design of medical devices.

連携を希望するテーマ

CAE/FEM解析システム：先進材料開発およびバイオメカニクスへの応用

CAE/FEM simulation system: applications to advanced materials and biomechanics

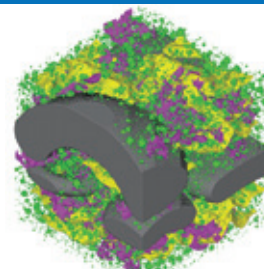
- 繊維強化型・粒子分散型複合材料、多孔質材料の確率的マルチスケール解析
- 粉末焼結型金属3D造形物(Additive Manufacturing)の造形不良を考慮したロバスト設計
- 整形外科・歯科分野のバイオメカニクス：FEM解析および力学的特性計測装置開発
- CAE/FEM解析の品質マネジメントとV&V
- Stochastic multiscale analysis of fibrous/particulate composites and porous materials
- Robust design of metal 3D printed cellular structures (Additive Manufacturing)
- Biomechanics in orthopedic and dental fields：FEM analysis and experimental apparatus design to characterize mechanical properties
- Quality management, verification and validation (V&V) of CAE/FEM system

製品化・事業化イメージ

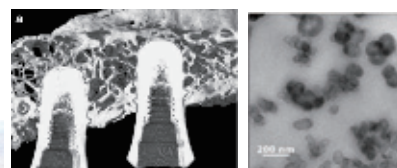
- 高性能複合材料・多孔質材料開発、金属3Dプリンター応用製品開発
- 確率的マルチスケールFEMソフトウェア開発(社内ユース/市販化)

連携の実績

- 各種(金属、セラミックス、高分子材料)複合材料・多孔質材料のイメージベース・マルチスケールモデリング、不確かさのモデリング
- CAE品質マネジメントシステム構築



Porous ceramics



Oral implant

Nano-particles



Metal 3D printing

Examples of CT/FIB-SEM/TEM image-based FEM simulation

研究室HP：<http://www.takano.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス：naoki@mech.keio.ac.jp



教授
閻 紀旺
ヤン ジワング
博士(工学)
Professor
YAN, Jiwang
Ph.D.

精密ナノ加工/ナノ構造体生成/レーザプロセッシング

高付加価値型ものづくりを実現するために、マイクロ・ナノ領域での材料除去・変形および物性制御に基づく高精度・高効率・省エネ・省資源の加工技術の研究開発に取り組んでいる。特に超精密機械加工、マイクロ・ナノ構造体生成、レーザプロセッシングなどを中心に新技術の提案ならびに原理の解明を進めている。

To create new products with high added value, we are conducting R&D on high-accuracy, high-efficiency, resource-saving manufacturing technologies through micro/nanometer-scale material removal, deformation, and property control. Our recent research focuses on ultra-precision machining, micro/nanostructure fabrication, electrical machining, thermochemical forming/imprinting, laser machining/texturing, and laser defect recovery.

連携を希望するテーマ

シリコンナノ粒子の安価かつ効率的生成技術

High-efficiency and low-cost production of silicon nanoparticles

- 高速レーザスキャンによるナノ粒子の高効率生成
- ドライ環境でもナノ粒子の捕集が容易
- ナノ粒子のサイズ・結晶性などが制御可能
- ナノ粒子を用いてネットワークなど様々な2次構造体の構築が可能
- シリコン廃材を原料とするため安価な量産が実現
- High-efficiency nanoparticle production by high-speed laser scan
- Easy collection and handling of nanoparticles in dry environment
- Controllability of particle size and crystallinity
- Secondary nanostructures such as nanoparticle networks
- Low-cost raw material using waste silicon powders

製品化・事業化イメージ

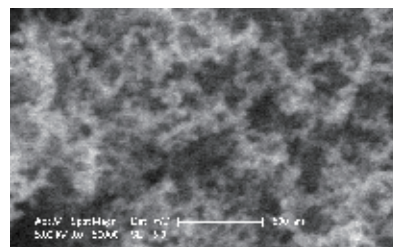
- リチウムイオン電池負極、発光デバイス、太陽光発電、半導体デバイス、集積回路、非揮発性メモリなど幅広い製品へ応用可能

連携の実績

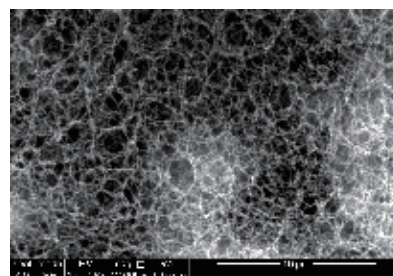
- 複数のテーマにて企業との共同研究・受託研究を多数実施中

関連する知的財産

- シリコンナノ粒子の製造方法及び装置(特開2017-081770)
- シリコン構造体、シリコン構造体の製造装置及びシリコン構造体の製造方法(特願2016-98613)



粒径~50nmのシリコンナノ粒子



シリコンナノ粒子で形成されたネットワーク構造

研究室HP：<http://www.yan.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス：yan@mech.keio.ac.jp



教授
荻原 直道
 オギハラ ナオミチ
 博士 (工学)
 Professor
OGIHARA, Naomichi
 Ph.D.

バイオメカニクス/解剖学/自然人類学

ヒトの運動機能と身体構造の進化メカニズムを力学的に明らかにするとともに、その知見や技術を使いやすい製品の設計や身体運動に関わる医療分野などへ応用することを目指しています。具体的には、二足歩行や手指動作の運動計測とシミュレーション、進化や成長に伴う動物の形態形成プロセスの分析などを行っています。

The research in my laboratory aims to clarify the structural adaptations and sophisticated motor functions of the human musculoskeletal system from evolutionary and mechanical engineering perspectives, and to apply such findings in mechanical product designs, anthropological science, and clinical engineering. Current research focuses on analysis and dynamical simulation of human locomotion and hand manipulation, and morphogenesis of human body structure.

連携を希望するテーマ

身体動作原理の解明

Principles of adaptive motor function

- ・ 神経回路モデルに基づく身体運動シミュレーション (歩行、上肢運動、把握)
- ・ 外乱に対する身体応答 (歩行制御・姿勢制御)
- ・ 屍体実験に基づく身体構造の機能解明

身体運動の計測・力学解析

Biomechanical analyses of human movements

- ・ ウェアラブルセンサを用いた歩行分析 (足部軌跡・床反力)
- ・ 筋骨格モデルに基づく身体運動の力学的負担の評価
- ・ 2方向X線透視装置を用いた3次元骨格運動の計測
- ・ 高齢者歩行、杖歩行、装具歩行の分析
- ・ 霊長類の歩行・動作分析

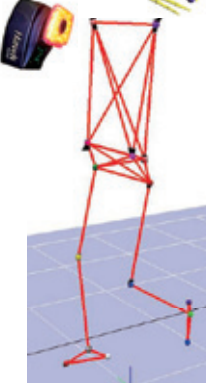
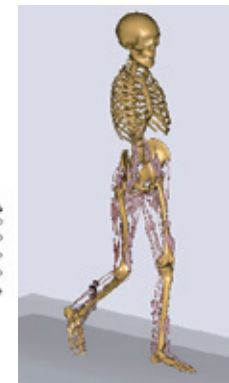
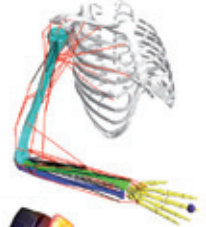
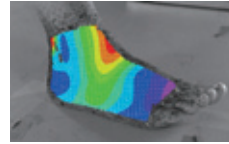
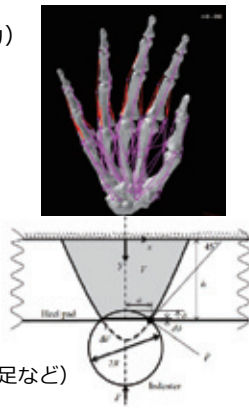
身体軟組織のバイオメカニクス

Biomechanics of soft tissues

- ・ 球圧子による軟組織の粘弾性特性計測
- ・ 運動中の体表面形状・ひずみの3次元計測
- ・ CT画像に基づく3次元骨・関節形態変異の統計解析

製品化・事業化イメージ

- ・ ウェアラブルセンサを用いた転倒予防・負担評価システム
- ・ 体表面形状計測に基づく疾患の早期診断 (変形性関節症・糖尿足など)
- ・ 製品設計・評価のためのシミュレーション



研究室HP : <http://www.ogihara.mech.keio.ac.jp>

メールアドレス : ogihara@mech.keio.ac.jp



教授
三木 則尚
 ミキ ノリヒサ
 博士 (工学)
 Professor
MIKI, Norihisa
 Ph.D.

MEMS/ヒューマンインターフェース/マイクロ・ナノ医療デバイス/マイクロ生化学分析/マイクロ・ナノ加工技術

MEMS技術によってナノ・マイクロスケールの構造物の製作が可能となり、その小ささとスケール効果を受けたセンサやアクチュエータ、化学・バイオチップなどが実現されてきた。本研究室では、MEMS技術の核となる製作・パッケージ技術の研究を行うとともに、開発された技術を用い、ヒューマンインターフェースとなる五感デバイス、バイオ・医療分野に応用可能な人工臓器を始めとするマイクロ・ナノ医療デバイス、マイクロ分析チップ、環境・エネルギー分野に応用可能なセンサならびにバイオリアクタの開発を目指す。

MEMS (MicroElectroMechanical Systems) Technology has enabled manufacturing of micro/nanoscale structures. A wide variety of sensors, actuators, and chemical/bio chips have been developed by exploiting the virtues of their small sizes and scale effects. Our laboratory focuses on innovative human-interface devices corresponding to human five senses, micro-fluidic devices for bio/medical applications including microTAS and artificial organs, sensors and micro bio reactor for environmental & energy field and fundamental micro/nano-fabrication technologies.

連携を希望するテーマ

マイクロ・ナノ工学を用いた医療・ヘルスケア/ICT/環境技術

Medical/ Healthcare/ ICT/ Environmental Applications of Micro-Nano Engineering

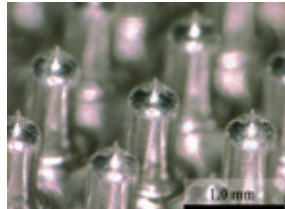
- ・ ナノ多孔質膜とマイクロ流路を組み合わせたインプラント人工腎臓
- ・ 微小針構造を用いたドライ脳波計測電極
- ・ 触覚呈示/センシングデバイス など
- ・ Artificial Kidney using nanoporous membranes
- ・ Dry EEG electrodes with candle-like structures
- ・ Tactile displays/ sensors

製品化・事業化イメージ

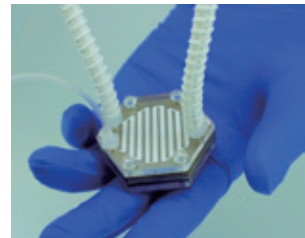
- ・ 患者QOLを格段に向上するインプラント人工透析システム
- ・ 前処理、導電性ペーストなしで高品質脳波取得
- ・ 触診等触感情報伝達応用

連携の実績

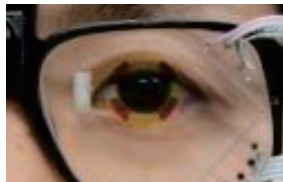
- ・ ICT用マイクロデバイスの開発
- ・ 医療用デバイスの共同開発
- ・ 細胞培養技術の共同開発



脳波計測用微小針電極。前処理が不要かつ有毛部からの脳波計測も可能。

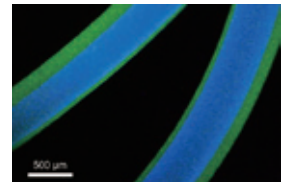


インプラント人工腎臓。国内32万人を越える人工透析患者のQOL改善に貢献。



微生物封入マイクロチューブ。微生物の高機能性を、微生物を保護しながら最大限活用可能なシステム。

透過型の視線検出システム。極軽量・低消費電力での瞳孔位置計測が可能。



研究室HP : <http://www.miki.mech.keio.ac.jp>

メールアドレス : miki@mech.keio.ac.jp

多孔質内の熱・物質輸送機構/MRIによる伝熱計測/燃料電池のNMRセンシング



准教授
小川 邦康
オガワ クニヤス
博士(工学)
Associate Professor
OGAWA, Kuniyasu
Ph.D.

光では見えない複雑体内部の様子をMRI（核磁気共鳴画像）装置により計測し、その内部で生じている熱や物質の輸送現象を多角的に捕えています。これにより不均一な内部での輸送機構が解明でき、装置の最適設計や最適制御が行え、大切なエネルギーを無駄なく使うことができますと考えています。

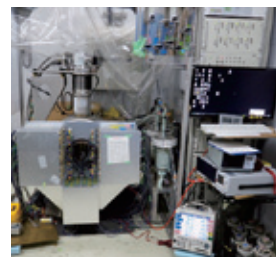
This laboratory focuses on heat and mass transport in opaque porous media using magnetic resonance imaging. This research clarifies non-uniform transport phenomena in porous media and allows development of a higher performance chemical reactor.

連携を希望するテーマ

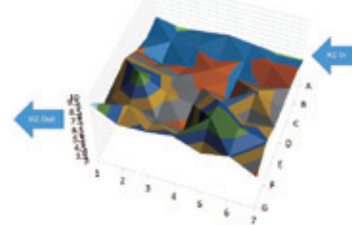
NMR/MRI（核磁気共鳴法）を用いた内部の水分量計測

Water content measurement using NMR / MRI (Nuclear Magnetic Resonance)

- 固体高分子形燃料電池（PEFC）内の水分量計測・発電電流分布の計測
 - 128個の小型NMRコイルを挿入し、高分子膜の水分量の空間分布を計測
 - ガス流路内を流れる水を可視化
 - 発電電流の空間分布・時間変化を計測
- 酸素濃縮器の充てん層内の水分吸着量を計測
- NMR/MRI Measurement of spatial distribution of water content and electric generation current in a polymer electrolyte fuel cell (PEFC)
- MRI measurement of the amount of water adsorption in the packed bed of an oxygen concentrator



PEFCを計測するためのNMR計測装置



PEFC内の含水量分布の一例

計測による現象の把握と設計支援

- NMR/MRIで内部を計測することによって現象を把握し、装置の改良や設計を支援するデータを提供します。

連携の実績

- 固体高分子形燃料電池の水分、電流分布計測（2011～2016年）
- 小型酸素濃縮器の吸着筒内の水分分布計測（2010～2016年）

関連する知的財産

- 小型NMRコイルを用いた試料内の水分計測法（7件）
- 固体高分子形燃料電池の発電電流密度分布の計測法（4件）

研究室HP : <http://www.ogawa.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス : ogawa@mech.keio.ac.jp

マイクロ・ナノメカトロニクス/バイオメテックス/微小流体システム



准教授
竹村 研治郎
タケムラ ケンジロウ
博士(工学)
Associate Professor
TAKEMURA, Kenjiro
Ph.D.

電圧印加によって活発なジェット流を発生する機能性流体（電界共役流体）や超音波技術などを用いて、 μ TAS（マイクロ・トータル・アナリシス・システム）のための微小流量ポンプやミキサなどの機能要素やシステム全体を開発しています。また、生物に学んだ新たなバイオメテックシステムの創造を目指しています。

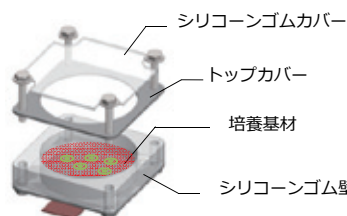
Developing mechanical components for μ TAS (micro total analysis system) such as a micro pumping system and a mixer, and biomimetic systems inspired by nature based on ultrasonic technology and a functional fluid like electro-conjugate fluid which generates a powerful jet flow under a high DC voltage.

連携を希望するテーマ

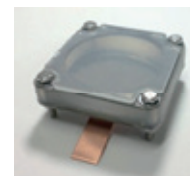
超音波振動を用いた細胞培養技術および触感インターフェースの実用化

Cell cultivation technology and Haptic interface technology using ultrasonic vibration

- 均質な細胞を高効率に培養する自動細胞培養装置
- 触り心地を定量化する触感センシングシステム
- 様々な触感を呈示する触感ディスプレイ
- Efficient autonomous cell cultivation device
- Tactile sensing system quantifying tactile sensation
- Tactile display capable of stimulating tactile receptors



超音波振動を利用した細胞培養装置



製品化・事業化イメージ

- 自動細胞培養装置はiPS細胞を初めとした再生医療の発展・普及に貢献する装置として実用化。
- 触感センシングシステムやディスプレイはエンドユーザー向け製品の触感評価や触感設計に利用

連携の実績

- 触感センシングに関する産学連携の実績多数

関連する知的財産

- 細胞培養器（特開2013-255483）など



超音波振動を利用した触感ディスプレイ

研究室HP : <http://www.takemura.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス : takemura@mech.keio.ac.jp



准教授 横森 剛

ヨコモリ タケシ
博士 (工学)

Associate Professor
YOKOMORI, Takeshi
Ph.D.

反応性ガスカ学 / 燃焼物質合成 / 内燃機関 / 低NOx燃焼 / 燃焼計測技術

ナノ物質の燃焼反応合成、高効率内燃機関の開発、低NOx燃焼器、燃焼計測法などの先進的燃焼技術に関する研究を行います。流体・熱・反応が複雑に影響し合う燃焼現象について、実験・数値シミュレーション・理論解析による多角的なアプローチから解明すると共に、応用技術への最適化や新規技術開発を目指します。

Advanced technologies of combustion such as nano-material flame synthesis, high efficiency internal combustion engine, low NOx combustor, and combustion diagnostics are of main research interests in this laboratory. The fundamental combustion phenomena related to those technologies are investigated through experimental, numerical and theoretical approaches, based on fluid, thermal and reaction dynamics. The optimized and new techniques for applications are also investigated.

連携を希望するテーマ

燃焼技術の新展開

Innovations in Combustion Technology

- 燃焼を利用した機能性物質の合成
- 燃焼器における高効率燃焼および燃焼安定化技術
- 環境に適応した燃焼技術開発
- 光学計測に基づく先進的燃焼診断技術
- Combustion synthesis of functional materials
- Enhancement of thermal efficiency and flame stability of combustor
- Eco-friendly combustion technologies
- Advanced optical combustion diagnostics

製品化・事業化イメージ

- 気体燃焼を利用したナノ粒子・多孔質粒子・コアシェル粒子等の合成技術
- 効率や安定性、環境適合性に配慮した各種燃焼器の開発
- レーザー等を利用した非接触燃焼場診断手法 (温度・濃度分布) の開発

連携の実績

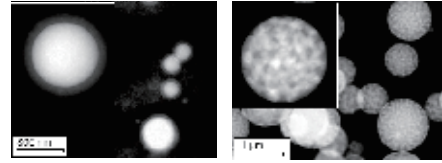
- ガスタービン燃焼器の燃焼安定性向上に関する研究
- 効率と利便性を考慮した家庭用焼機器 (コンロ) の開発
- 燐光体&レーザーを利用した可燃性固体内部または高温気流中の非接触温度測定手法の開発

関連する知的財産

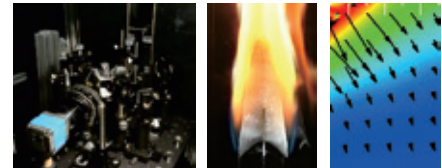
- Method for Synthesizing Phosphorescent oxide nanoparticles, 国際特許 (公開番号) : WO2007/041198A
- 温度及び酸素濃度測定装置, 特開2015-145852, etc.

研究室HP : <http://www.yokomori.mech.keio.ac.jp/>

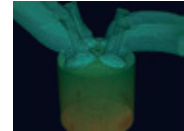
メールアドレス : yokomori@mech.keio.ac.jp



気相燃焼法で得られたコアシェルおよび不均質微粒子



燃焼時の可燃性固体 (プラスチック) 内部非接触温度測定 (左: 測定装置, 中央: 燃焼時写真, 右: 内部温度分布)



ガソリンエンジン筒内シミュレーション



准教授 宮田 昌悟

ミヤタ ショウゴ
博士 (工学)

Associate Professor
MIYATA, Shogo
Ph.D.

再生医療工学 / バイオメカニクス / 生体物理工学

生体を構成する細胞はそれ自体が極めて高い機能を持った機械構造体と考えることができます。本研究室では機械工学、材料工学、細胞工学、電子工学を主体として、生体組織再生のための技術開発や細胞診断チップに関する研究を進めています。

The cell is the basic structural, biological unit of living organisms and is considered as a mechanical system having highly sophisticated functions. We focus on developing new methods for tissue-regeneration and a tissue or cell processing chip (for analysis, sorting, drug-screening, etc.) based on cell-engineering, mechanical engineering, and material science.

連携を希望するテーマ

多種細胞を用いた生体外での組織再生技術とその応用

Tissue reconstruction technology with multiple types of cells and its applications

- 皮膚培養モデルに対する紫外線暴露が皮膚の力学特性に与える影響
- 真皮・表皮重層組織の生体外構築と創傷治癒過程の再現
- 毛髪組織の完全生体外再生と創薬スクリーニングへの応用
- 脂肪組織チップによる機能性食品評価
- Effect of UV irradiation on mechanical property of tissue engineered skin model
- *In vitro* wound healing model using tissue-engineered skin tissue
- Hair regeneration by completely *in vitro* process and its application for drug screening
- Evaluation of functional food using engineered adipose tissue

製品化・事業化イメージ

- 皮膚組織モデルを用いた化粧品、医薬品開発のためのスクリーニングシステム構築
- 毛髪再生医療製品および創薬スクリーニングキットの開発

連携の実績

- ES, iPS細胞を対象とした細胞の電気的特性に基づくセルソーティングシステム開発 (製品化プロトタイプを出展)
- iPS細胞のための培養基材開発 (製品化)
- 血液分画技術の開発

関連する知的財産

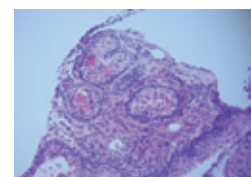
- 細胞集積法 (特許第5583532号), 細胞担持用基材及びその製造方法 (再表2016/136251)

研究室HP : <http://www.miyata.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス : miyata@mech.keio.ac.jp



創薬スクリーニングのための細胞チップ (左) と異種細胞のアセンブリ (右)



生体外での毛包再生 (マウスES細胞と表皮細胞による)



准教授
尾上 弘晃
オノエ ヒロアキ
博士 (情報理工学)
Associate Professor
ONOE, Hiroaki
Ph.D.

マイクロナノ工学/バイオフィブレーション/自己組織化/生物物理

自然界には階層的な自己組織化により魅力的な機能を発現している構造・現象が多数見られる。本研究室ではマイクロ・ナノスケールの微細加工技術を基盤に、分子スケールからマクロスケールまでの階層化された人工システムの構築原理を探索し、マイクロマシン・情報デバイス・再生医療への展開を目指す。

Based on microscale science and technologies, our laboratory focuses on exploring the principle on constructing artificial hierarchical systems among multi-scale and heterogeneous materials, and applying the principle to create novel functional systems for micro-machines, information devices, bioscience and regenerative medicine.

連携を希望するテーマ

マイクロ流体技術を利用した機能性材料・センサ・再生医療/創薬用人工組織チップの開発

Microfluidic technologies for functional materials, sensors and medical devices

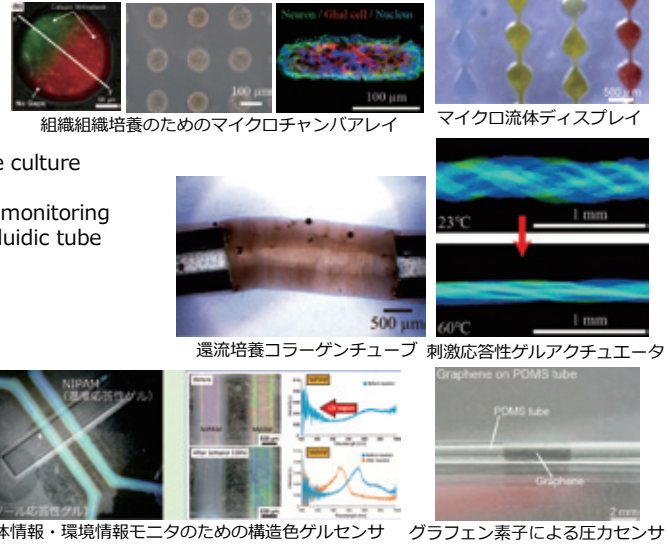
- In vitro組織培養のためのマイクロチャンバアレイ
- 還流可能なチューブ状コラーゲン組織培養デバイス
- 生体情報・環境情報モニタのための構造色マイクロゲルセンサ
- グラフェン素子を用いたインライン型圧力センサ
- マイクロ流体を利用した反射型ディスプレイデバイス
- 刺激応答性ゲルによるマイクロソフトアクチュエータ
- Microenvironment-controlled collagen microchamber for tissue culture
- Perfusable collagen microtube device for tissue culture
- Structural-color gel sensors for healthcare and environmental monitoring
- Graphene-based inline pressure sensor integrated with microfluidic tube
- Microfluidic-based flexible reflective display
- Stimuli-responsive hydrogel microactuator

製品化・事業化イメージ

- 再生医療や薬物試験のための人工組織培養チップの開発
- 生体や環境の化学物質を検出するウェアラブルセンサの開発
- 流体を利用したフレキシブル・省電力な反射型表示装置の開発
- チューブ型小型グラフェン圧力センサの開発

関連する知的財産

- 多層構造体とその製造方法及び利用方法 (2017年・出願済み)
- 刺激応答性ファイバ及び製造方法 (2016年・出願済み)
- コラーゲンマイクロピーズの作製法 (2015年・出願済み)
- コロイド結晶による構造色光学フィルタ (2015年・出願済み)



研究室HP : <http://www.onoe.mech.keio.ac.jp/index-j.html>

メールアドレス : onoe@mech.keio.ac.jp



准教授
石上 玄也
イシガミ ゲンヤ
博士 (工学)
Associate Professor
ISHIGAMI, Genya
Ph.D.

フィールドロボティクス/宇宙探査工学/テラメカニクス/自律移動システム

フィールドロボティクス (月惑星探査, 火山探査, 無人化施工, 農業など) を主な研究対象としています。オフロードにおける車両走行力学解析をはじめ、ロボットの自律移動・航法誘導制御、ロボットアーム、電源制御装置の開発、高精度シミュレータなどの研究に取り組むとともに、ロボットシステムのフィジビリティスタディや実証実験にも従事しています。

The main mission of our group is to perform fundamental and applied research into the robotic mobility system, for an application to planetary exploration rovers and field robots. Our research interests are as follows: (1) mobility analysis based on vehicle-terrain interaction mechanics; (2) autonomous mobility system including guidance, navigation, and control; (3) multibody dynamics simulation; and (4) development of mobility mechanism as well as power control unit for challenging environment.

連携を希望するテーマ

ロボティクス技術の実社会・極限環境への展開

Towards Extreme Environments with Robotic Technology

- オフロード車両や建設機械の運動解析・制御・高精度シミュレーション
- 高精度小型移動距離センサ, レーザ距離計などの計測システム
- 自律移動ロボットシステムの研究開発
- 太陽光電源システムの開発と適応的制御
- Motion Analysis, Control, & High-fidelity Simulator for Off-road Vehicles & Unmanned Construction Machines
- Development of Robotic Sensory Systems
- Development of Autonomous Mobility System
- Smart Electric Power Control for Photovoltaic System

製品化・事業化イメージ

- ロボットのコア技術 (センサ, 電源制御など) の製品化・スピノフ
- 高精度シミュレータを基盤とした車両・建機的设计開発・制御
- ロボットの自律化・自立化のためのシステム開発

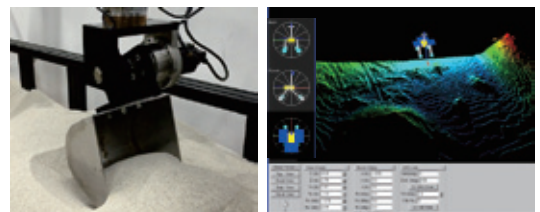
連携の実績

- 「太陽電池搭載の可搬型非常電源システムの研究開発」, 2015年~2016年
- 「農業用を中心とした自律多機能型ロボットの要求仕様検討」, 2017年~
- 「群ロボット制御による倉庫内搬送システムの検討」, 2017年~



不整地移動ロボット

オフロード車両の走行力学



バックホウの運動解析

レーザ距離計による地図生成

研究室HP : <http://www.srg.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス : ishigami@mech.keio.ac.jp



専任講師
安藤 景太
アンドウ ケイタ
Ph.D.
Assistant Professor
ANDO, Keita
Ph.D.

キャビテーション/音響/熱・物質移動/実験・計算流体工学

キャビテーション流れに代表される複雑な混相流動の現象解明に取り組んでいる。キャビテーション気泡・ガス気泡の力学・熱力学に関するモデリングおよび実験手法を提案し、各種応用分野（超音波洗浄、曝気、食品加工、医療、マイクロ・ナノ流体、水中爆発、流体構造連成）への適用を目指している。

Our research efforts are aimed at understanding complex multiscale physics associated with multiphase flows such as bubbly cavitating flows in hydraulic applications. We propose experimental, theoretical, and numerical techniques to study the dynamics of cavitation and gas bubbles, toward applications including ultrasonic cleaning, aeration, food processing, medicine, micro/nanofluidics, underwater explosions (UNDEX), and fluid-structure interaction (FSI) problems.

連携を希望するテーマ

混相流（気泡・液滴）の力学現象

Dynamics of flow with bubbles and droplets

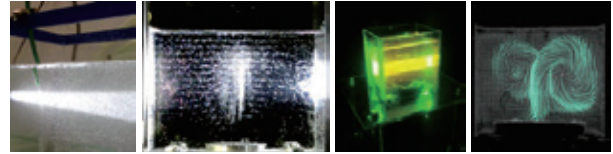
- ・ マイクロバブル曝気によるガス過飽和水の生成
- ・ 蒸気性・ガス性キャビテーション気泡の発生と制御
- ・ 粘弾性体中のマイクロバブルと衝撃波・超音波の干渉
- ・ 高粘性流体・粘弾性体中のレーザー誘起衝撃波・気泡
- ・ 固体壁面への液滴の高速衝突に伴う水撃およびせん断流
- ・ 実験および理論・シミュレーション双方によるアプローチ
- ・ Production of gas-supersaturated water by microbubble aeration
- ・ Generation and control of vaporous/gaseous cavitation in water
- ・ Interaction of ultrasound and bubbles in viscoelastic materials
- ・ Laser-induced shocks and bubbles in viscoelastic materials
- ・ Water hammer and shear flow in droplet impact problems
- ・ Study of multiphase flow with experiment, theory, and simulation

製品化・事業化イメージ

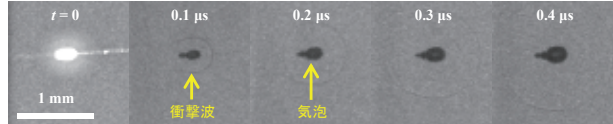
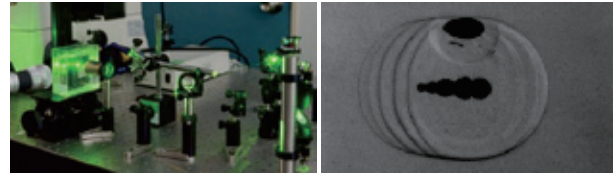
- ・ 化学薬品に頼らない低環境負荷の物理洗浄技術の開発
- ・ ガス過飽和水を用いたエロージョンフリー超音波洗浄技術の開発
- ・ 超音波を用いた食品加工技術の開発

連携の実績

- ・ 超音波ガス性キャビテーションによる付着コンタミ粒子の除去
- ・ 超音波とマイクロバブルを併用した洗浄技術の開発
- ・ 超音波キャビテーション気泡の崩壊現象を利用した食品加工



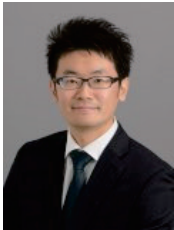
ガス過飽和水を用いたエロージョンフリー超音波洗浄：マイクロバブル曝気によるガス過飽和水の生成（左）、洗浄槽内のキャビテーション気泡の捕捉と音響流（中）、洗浄槽内のPIV可視化による液相速度場の解析（右2つ）



レーザー誘起現象に関する実験：レーザー誘起現象可視化のための光学系（左上）、ゼラチンゲル中のレーザー誘起衝撃波とガス気泡の干渉（右上）、ゼラチンゲル中のレーザー誘起衝撃波・気泡の超高速度カメラによる連続撮影（下）

研究室HP : <http://www.kando.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス : kando@mech.keio.ac.jp



助教
前田 知貴
マエダ トモキ
博士（工学）
Research Associate
MAEDA, Tomoki
Ph.D.

高分子材料/合成/ナノ・マイクロ構造解析

化学合成・構造解析・物性評価の3つの技術を駆使することで、高分子材料の機能性を向上させます。電子・放射光により解析可能なナノ・マイクロ構造は、物性の発現に深く関係しています。そのメカニズムを解明し、分子レベルでの合成・制御にフィードバックすることで、新規機能性材料の創製を目指します。

Harmonizing the synthesis, the structural analysis, and the physical properties is the key to the invention of novel polymeric materials with high functionalities. We utilize electron microscopy and synchrotron-radiation scattering for the nano- and micron-scale structural analyses to link the structure with the physical properties. Atomic-scale molecular structures will be controlled by the synthesis in order to deepen the basic understanding of structure-function relationships of polymers.

連携を希望するテーマ

ポリマーの重合・構造解析・物性評価の融合によるポリマー材料の高機能化

Functionalizing polymer materials by understanding structure-function relationships

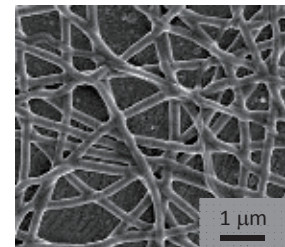
- ・ 機能性ポリマーの重合
- ・ ポリマーのナノ・マイクロ構造・粘弾性・力学物性の評価
- ・ 機能性ナノファイバー・ゲルの作製
- ・ プラズマ処理・DLC（炭素材料）によるポリマー表面・界面の機能化改質
- ・ ポリオレフィン・生分解性ポリマー・生体医療材料の応用
- ・ Polymerization of functional polymeric materials
- ・ Nano- and micron-scale structural, rheological and mechanical analyses
- ・ Fabrication of nanofibers and gels with high functionalities
- ・ Surface-functionalization by plasma treatment and DLC deposition
- ・ Development of polyolefins, biodegradable polymers, and biomedical materials

製品化・事業化イメージ

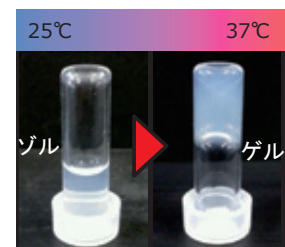
- ・ 医療用ポリマー・ゲル・不織布の機能性向上

連携の実績

- ・ 機能性重合開始剤に関する研究



ポリマーのナノファイバー



温度応答性ポリマーゲル

研究室HP : <http://www.hotta.mech.keio.ac.jp/>

メールアドレス : maeda@mech.keio.ac.jp



教授
黒田 忠広
クロダ タダヒロ
博士（工学）
Professor
KURODA, Tadahiro
Ph.D.

システムLSI / 低電力高速LSI回路設計 / ワイヤレス通信 /
ブロードバンド通信 / 画像認識 / センサネットワーク

システムLSIを研究。ユビキタス情報化社会を実現するための、ワイヤレス通信（磁気結合チップ間通信やパルス短距離通信など）、ブロードバンド通信（高速シリアルリンクなど）、画像認識（人物検出など）、センサネットワークなどの低電力高速LSIの設計を研究。

This laboratory is focused on system LSI, especially low-power, high-speed LSI designs for wireless data communications (e.g., ultra widebands), broadband data communications (e.g., high-speed serial links), and human-computer interactions (e.g., image recognition) for realizing an ubiquitous IT society.

連携を希望するテーマ

近接場結合集積技術

Near-Field Coupling Integration Technology

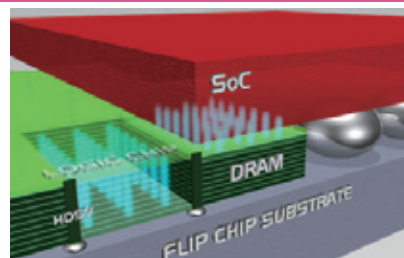
- 磁界結合通信による3次元チップ集積
- 電磁界結合通信によるモジュール集積
- SiCを使ったパワーエレクトロニクス
- Deep learning・人工知能
- 3D chip integration using inductive coupling link
- Modular integration using electromagnetic coupling link
- SiC / Power electronics
- Deep learning / Artificial intelligence

製品化・事業化イメージ

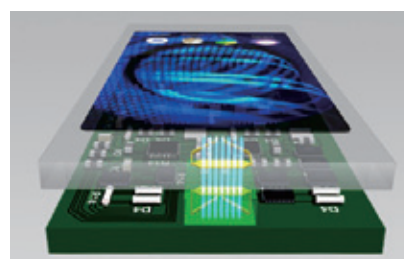
- メモリLSIとシステムLSIの高速・高密度・低消費電力3次元集積技術の開発
- 高エネルギー効率なスーパーコンピュータの開発
- 高信頼な非接触通信及び無線給電システムの開発

連携の実績

- 企業との共同研究実績「近接場結合集積技術による革新的情報処理システムの実現と応用展開」2015年～
- 他、10社以上との共同研究・実用化検討が進行中



磁界結合による3次元チップ集積



電磁界結合通信によるモジュール集積

研究室HP : <http://www.kuroda.elec.keio.ac.jp/>

メールアドレス : kuroda@elec.keio.ac.jp



教授
青木 義満
アオキ ヨシミツ
博士（工学）
Professor
AOKI, Yoshimitsu
Ph.D.

画像工学 / 画像計測 / 画像認識 / コンピュータビジョン / メディア情報処理

画像技術に合わせて対象に関する物理的な知見を導入しながら、単なる学理と実験システムの構築と留まらず、実世界で動作し、役に立つ画像センシング技術に関する研究を展開している。主な対象は、人・モノ・環境の画像計測と認識、医療、ITS等である。産学・異分野連携を積極的に進め、いくつかの実用化事例を生んでいる。

We promote research works aiming at creating actually practical image sensing systems in the real world, not only developing novel algorithms and experimental systems. Physical features of the targets are carefully considered for developing the systems. Main research targets are image measurement and recognition for Human, objects, and environment. Specific research subjects are : Medical image sensing, ITS, and so on. Some of the systems were actually in practical use.

連携を希望するテーマ

ロバスト画像認識技術の産業応用

Image recognition technologies for industrial applications

- 深層学習による画像パターン認識
- 人物検出・追跡技術
- 人物姿勢推定技術，行動認識技術
- 物体，環境を含む実シーンの認識・理解
- Pattern recognition by Deep Learning approaches
- Person detection & tracking
- Person pose estimation & action recognition
- Object & real scene recognition, understanding

製品化・事業化イメージ

- 深層学習とハンドクラフト特徴を組み合わせた実用的な画像認識システム

連携の実績

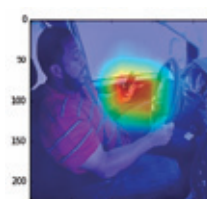
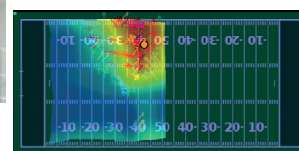
- セキュリティ，見守り用途の人物行動認識
- スポーツ映像解析
- 呼吸・嚥下機能計測と医療応用
- 自動運転実現に向けた画像センシング技術



深層学習による時系列人物行動認識



チームスポーツ映像解析



CNNによる特徴の可視化



キャリアレーションレス視線推定

研究室HP : <http://www.aoki-medialab.jp/>

メールアドレス : aoki@elec.keio.ac.jp



准教授
中野 誠彦
ナカノ ノブヒコ
博士 (工学)
Associate Professor
NAKANO, Nobuhiko
Ph.D.

バイオメディカルLSI/LSIマイクロシステム/数値シミュレーション/パワーエレクトロニクス

ブレインマシンインタフェースを中心としたバイオメディカル用LSIの設計。そのために微弱な信号増幅システムの開発。LSIチップ単体で自律動作するマイクロシステムを研究。電磁界シミュレーションと応力歪み解析によりパワーエレクトロニクスの信頼性評価。

This laboratory focused on Biomedical LSI design for Brain Machine Interface that includes very low voltage signal amplification. Autonomous microsystem development using standard CMOS technology. Reliability evaluation of power electronics device and system using electromagnetic field simulation and stress-strain simulation.

連携を希望するテーマ

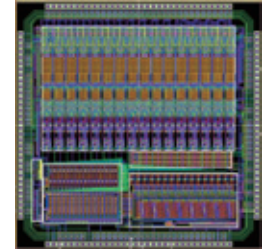
バイオメディカルLSI設計とマルチフィジックスシミュレーション

Biomedical LSI design and Multiphysics simulation

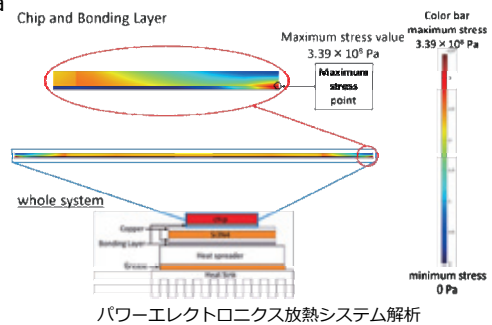
- 生体信号取得用LSIの設計
- オンチップ太陽電池を活用した微小センサノード開発
- エレクトロニクスとメカニクスを組み合わせたマルチフィジックスシミュレーション
- 半導体・回路・システムのモデル化
- Biomedical LSI design
- Microsystem using On-chip solar cell
- Multiphysics simulation including electric and mechanical phenomena
- Various modeling of device/circuit/system

連携の実績

- 神経信号取得用LSI設計
- パワーエレクトロニクス用接合材料信頼性評価用シミュレーション
- パワーエレクトロニクス用デバイス高性能化モデリング
- 有機ディスプレイ用寄生素子抽出シミュレーション



神経信号取得用多チャンネルLSI



研究室HP : <http://www.nak.elec.keio.ac.jp>

メールアドレス : nak@elec.keio.ac.jp



准教授
久保 亮吾
クボ リョウゴ
博士 (工学)
Associate Professor
KUBO, Ryogo
Ph.D.

システムエレクトロニクス/システム制御/通信ネットワーク

制御工学および情報通信工学を基盤として、持続可能な低炭素社会を実現するためのシステムエレクトロニクス技術の研究を行っています。近年は、スマートグリッド/コミュニティの通信・制御技術、光アクセスシステムの省電力化・高機能化技術、広域センサ・アクチュエータネットワーク等の研究に重点的に取り組んでいます。

Keio System Electronics Laboratory (KSEL) aims at realizing a low-carbon and sustainable society on the basis of control engineering and information/communication engineering. Recently, control and communication technologies in smart grids/communities, energy-efficient optical access network systems, network traffic control techniques based on control theory, and large-scale sensor-actuator networks are mainly studied.

連携を希望するテーマ

情報通信と計測制御を融合したスマートインフラシステム

Information, Communications, and Control for Smart Infrastructure Systems

- ネットワーク化制御システム (ロボット、エネルギー、自動車を含む)
- 計測制御システムのサイバーセキュリティ
- 光・無線アクセスネットワーク、データセンターネットワーク
- 情報通信システムの省エネルギー化、リアルタイム化、高信頼化
- IoT/M2M、サイバーフィジカルシステム
- Networked control systems (incl. robots, energy, vehicles)
- Cyber security in control systems
- Optical and wireless access networks and datacenter networks
- Energy-efficient, real-time, and reliable control of information and communication systems
- IoT/M2M and cyber-physical systems

製品化・事業化イメージ

- スマートグリッド向け情報通信ネットワーク技術の開発
- 工場自動化における情報通信技術、計測制御技術の開発
- 光・無線ネットワークの品質制御技術の開発

連携の実績

- スマートグリッド/M2M向け光ネットワークシステム
- ネットワークを介したリアルタイム計測制御システム



光ネットワークを利用した低消費電力、低遅延、高信頼のアクチュエータ制御システム

研究室HP : <http://www.kbl.elec.keio.ac.jp/>

メールアドレス : kubo@elec.keio.ac.jp



教授
田中 茂
タナカ シゲル
工学博士
Professor
TANAKA, Shigeru
Ph.D.

環境化学 / 地球環境問題 / 大気汚染 / 酸性雨 / 環境計測技術 / 空気清浄技術

“地球環境”、“環境計測・対策技術”、“酸性雨”の3つの大きなテーマを研究対象として、これらのテーマに関連する研究プロジェクトによる研究成果を基にして、理論的考察及び解析を踏まえて地球環境の実態を明らかにし、21世紀における環境問題の解決・対策に貢献する。

This laboratory focuses on long-range transportation of air pollutants from the East Asia, measurement of trace metals in aerosols using inductively coupled plasma mass spectrometry equipped with laser ablation and estimation of sources of aerosols, network observation of acid rain in the Tokyo metropolitan area, development of a new measurement technology for air pollutants diffusion scrubber method, and development of an efficient removal technology for hazardous gases in indoor air using a diffusion scrubber method.

連携を希望するテーマ

快適環境の創造のための高性能な空気清浄技術

A High Performance Technology of Air Cleaning for Creating the Comforts of Life

- 多孔質テフロン膜を用いた拡散スクラバーによる有害ガスの循環効率的な除去処理技術
- 空気流動真空蒸発法によるVOCを除去した廃溶剤の新たな再生技術
- 冷却フィンを用いた除去液噴霧による排気ガス中VOCCの除去処理技術
- リチウムイオン電池製造プロセスから排出されるNMPの回収・精製技術
- 荷電ミスト噴霧によるPM2.5の循環効率的な除去処理技術
- A circulatory and efficient technology for hazardous gases by using diffusion scrubber with porous Teflon membrane
- A new technology for recycling waste solvent after removal VOC by vacuum evaporation with air flow
- A removal technology for VOCC in exhaust gas by spraying removal solution to heat exchanger
- A removal and refining technology for NMP in exhaust gas from the production process of Li Ion battery
- A circulatory and efficient removal technology for PM2.5 by spraying electric charged mist



大型多孔質PTFE膜パネルを用いた排気ガス中VOC除去処理実験装置



空気流動真空蒸発法による廃溶剤再生装置

製品化・事業化イメージ

- 1) 塗装・印刷工場での排気ガス中VOC(トルエン、キシレン、酢酸エチル等)の除去処理
- 2) 半導体製造の乾燥プロセスでの排気ガス中IPA(イソプロピルアルコール)の除去処理
- 3) インク洗浄、ドライクリーニングで使用されるDCM(ジクロロメタン)、TCE(トリクロロエチレン)の除去処理
- 4) リチウムイオン電池製造の乾燥プロセスでの排気ガス中NMP(N-メチル-2-ピロリドン)の回収と精製

連携の実績

- 1) 2008-2010年度環境省・環境研究総合推進費、「二酸化炭素を排出しない排気ガス中VOCの循環効率的な除去処理技術の開発」
- 2) 2011-2012年度NEDO・産業技術実用化開発助成事業、「空気流動真空蒸発法による廃溶剤の新たな再生処理装置の実用化」
- 3) 2012-2014年度環境省・環境研究総合推進費・補助金、「有機溶剤の効率的再生処理技術の実用化」
- 4) 2013-2015年度経済産業省・戦略的基盤技術高度化支援事業、「ダイヤモンド膜高耐食性ドライ真空ポンプを用いたVOC蒸発分離による革新的溶剤リサイクル装置の実用化」

関連する知的財産

- 1) VOC除去液再生・回収装置及び再生・回収方法(特許第5187861号)
- 2) 真空蒸発式VOC回収装置及び方法(特許第5758638号)
- 3) 空気浄化方法及びシステム(特許第5305276号)

研究室HP : <http://www.applc.keio.ac.jp/~tanaka/lab/>

メールアドレス : tanaka@applc.keio.ac.jp



教授
朝倉 浩一
アサクラ コウイチ
工学博士
Professor
ASAKURA, Kouichi
Ph.D.

有機化学システム / 自己組織化 / キラル対称性の破れ / 表面処理、化粧品技術

生命系と同様に開放系で平衡から遠く離れた状態であるがゆえに自己組織化する化学システムを、解析、制御、設計し、有用な生産技術や新規物質の開発をおこなっています。自発的にキラリティーを発生させる化学システム、自発的に構造化して機能化する表面、美しい表面を製作する塗装技術や化粧品技術などを研究対象としています。

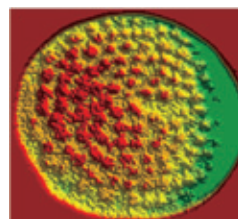
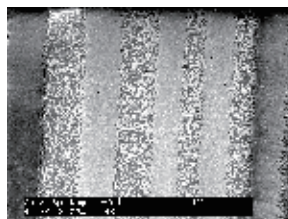
Studies are made for developing useful manufacturing technologies and new materials by analyzing, controlling, and designing far-from-equilibrium open chemical systems that emerge self-organized states that are similar to living systems. Research subjects are chiral symmetry breaking in chemical systems, interfaces that spontaneously organize to functionalize, and fabrication of beautiful surfaces for coatings and cosmetics technologies.

連携を希望するテーマ

非平衡界面に自発的に発生するダイナミズムと、その塗装、化粧品技術への応用

Spontaneous emergence of dynamism in interfaces in far-from-equilibrium conditions and its application to coating and cosmetic technologies

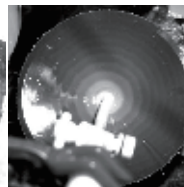
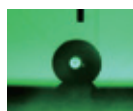
- 「まるで生き物のように、界面が自発的に踊り出す」などという現象は、実際に起こるのでしょうか？ 答えは「Yes!」です。塗装、乾燥、混合などの処理で、熱力学平衡から遠く離れた条件下で形成された界面は、様々なダイナミズム、すなわち動的挙動を自発的に発生させます。そして、これら現象は塗装および化粧品技術に大いに関わります。
- Is it possible to realize the system in which an interface spontaneously starts dancing like living organisms? The answer is “Yes!”. In the process of forming interfaces in far-from-equilibrium conditions by the processes of coating, drying, and mixing, they can exhibit various dynamisms spontaneously. These phenomena are strongly correlated with coatings and cosmetics technologies.



塗装表面乾燥時に自発的に発生する空間周期温度分布構造(サーモカメラで測定)

液膜塗工の際に自発的に発生する空間周期ストライプパターンと水浴により発生する空間周期ドーナツパターン

↓ 高撥水性を発現



高速で回転している基板上に液体を流入させた際に形成された液膜に自発的に発生する流動パターン

製品化・事業化イメージ

- 塗装、化粧品技術：美しい表面にする、表面に自発的に機能を発生させる

連携の実績

- 2000年代初頭 (株)カネボウ化粧品：サンスクリーン アリィーシリーズ
- 2010年代初頭 日産自動車(株)：回転霧化式静電塗装装置のベルカップ
- 2017年現在 化粧品技術に関する共同研究 3件

研究紹介HP : <http://www.applc.keio.ac.jp/~asakura/>

メールアドレス : asakura@applc.keio.ac.jp



教授
藤原 忍
フジハラ シノブ
博士 (工学)
Professor
FUJIHARA, Shinobu
Ph.D.

無機構造科学/機能性セラミックス/スマートマテリアル/無機合成化学/ゾルゲル科学

金属酸化物や水酸化物などの無機固体物質は、その結晶構造と化学結合の多様性によりさまざまな機能性を示します。マイクロ・マクロな形状・形態・微細構造制御を行うことでこれらの物質を材料化し、発光デバイス、光起電力デバイス、センサーデバイス等へ応用することを目指しています。また、新たな電子活性機能・光学活性機能を有する機能性有機・無機ナノハイブリッド材料を設計するとともに、それらの合成プロセス技術を開発しています。

This laboratory focuses on nanostructured metal oxide, hydroxide, and inorganic-organic hybrid materials prepared using chemical solution methods so as to develop functional ceramics and smart materials with various electronic, optical and photonic functions. Also studied are their practical applications to phosphors, luminescence sensors, and electrodes of photovoltaic devices.

応用化学科

連携を希望するテーマ

光機能性無機材料の合成と応用

Synthesis and applications of inorganic optical materials

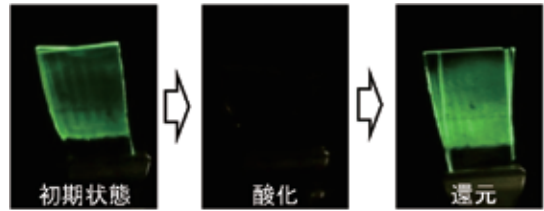
- 蛍光体薄膜・反射防止膜など光機能性薄膜の構造制御と新機能の開拓
- 構造を制御した無機蛍光体粒子の作製とセンシング・イメージング応用
- 層状希土類水酸化物の低温製膜方法および光機能性の開拓
- 希土類系MOFの形態制御と新規な蛍光体材料への応用
- 色素増感太陽電池の半導体電極の開発
- Structural control of optical thin films for novel applications
- Inorganic phosphors for imaging and sensing applications
- Layered rare-earth hydroxides for optical applications
- Rare-earth MOFs for phosphor applications
- Semiconductor electrodes for dye-sensitized solar cells

製品化・事業化イメージ

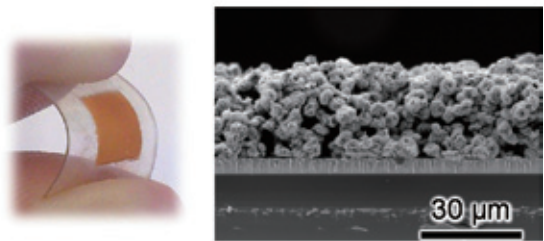
- 蛍光体を用いた環境モニタリング (水素ガスセンサ、汚染物質センサなど)
- 各種電極材料の低温合成技術の開発

連携の実績

- 光源のエネルギーロスを低減する反射防止膜の開発
- 層状金属水酸化物の低温合成と酸化物への変換および電極への応用



酸化還元に対応して明滅を繰り返す蛍光体薄膜



プラスチック (ITO-PEN) 基板に製膜した酸化亜鉛電極

研究室HP : <http://www.applc.keio.ac.jp/~shinobu/>

メールアドレス : shinobu@applc.keio.ac.jp

慶應義塾先端科学技術研究センター



教授
チッテリオ, ダニエル
チッテリオ ダニエル
Dr.sc.nat.
Professor
CITTERIO, Daniel
Dr.sc.nat.

化学センサー/多成分同時測定/機能性色素/化学センシングデバイス

産業・医療・環境・バイオ分析への応用を目指した化学センサーの開発を目的とし、機能性有機色素を始めとする新規機能性材料の創製を行っている。また電気化学・光学・質量応答を利用した、においや味覚センサーのような多成分センサー、さらには、新たな化学センサーの作製技術開発にも取り組んでいる。

My current research is devoted to the development of chemical sensors with focus on multi-analyte sensing systems for industrial, medical, environmental and biological applications. For this purpose, we design and synthesize novel functional materials, such as functional organic dyes. We are also developing multi-analyte sensing systems useful as artificial noses and artificial tongues, based on electrochemical, optical and mass-sensitive devices. Furthermore, novel fabrication techniques for chemical sensors are evaluated.

応用化学科

連携を希望するテーマ

化学分析のための機能性材料およびデバイスの開発と応用

Development of functional materials and devices for chemical analysis

- インクジェット技術を利用した紙基板分析デバイス
- イメージングを指向した蛍光/発光有機色素
- 機能性物質を内包させたナノ粒子材料
- センシング材料及びデバイスの応用展開
- Inkjet-printed paper-based analytical devices
- Fluorescent/Luminescent organic dyes for imaging
- Functional materials-doped nanoparticle materials
- Practical applications of sensing materials/devices

製品化・事業化イメージ

- 使用者に負担をかけない紙ベース低コストデバイスの開発
- 発光により生体分子を高感度に検出する色素の開発

連携の実績

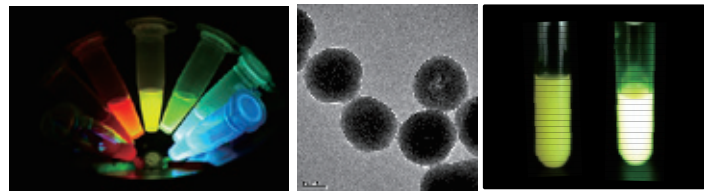
- 眼病診断のための紙基板分析デバイスの開発と応用
- 高輝度生物発光基質の開発

関連する知的財産

- 紙ベース反応用チップ及びその製造方法 (特許第5935153号)
- 蛍光性化合物及びそれから成る標識剤 (特許5177427号)

関連する報道記事

- 防げ感染症 安い簡単「紙センサー」 (2015年2月23日 日本経済新聞夕刊)

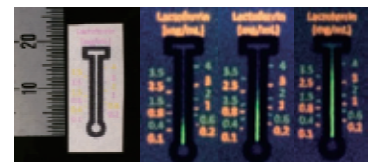


様々な発光波長を有する蛍光色素

発光色素を内包したタンパク質ラベリング用粒子材料



インクジェット技術による紙への自由なパターンニング



“温度計型”蛍光検出用紙基板デバイス

研究室HP : <http://www.applc.keio.ac.jp/~citterio/index.html>

メールアドレス : citterio@applc.keio.ac.jp

慶應義塾先端科学技術研究センター



准教授
奥田 知明
Okuda Tomoaki
博士（農学）
Associate Professor
OKUDA, Tomoaki
Ph.D.

環境化学／大気化学／エアロゾル工学／分析化学／地球化学

近年、PM_{2.5}等微小粒子の健康影響が懸念されています。エアロゾル粒子の健康影響を評価するには、その化学組成、表面積、帯電状態等の物理化学特性を解明することが重要です。これらの課題に対して、大気化学や微粒子工学等の知見を基に、既往の概念にとらわれずに、新たな手法を自ら開発しながらアプローチをしています。

Recently, atmospheric aerosols such as fine particles (PM_{2.5}) are of serious concern for human health. Physical and chemical properties of aerosols such as chemical composition, surface area and surface potential are important as they provide metrics for their adverse health effects. I try to elucidate these parameters of atmospheric aerosols by developing original methods to measure them based on atmospheric chemistry and aerosol engineering.

連携を希望するテーマ

生体有害性に関連する大気エアロゾルの物理化学特性の解明

Elucidation of Physical and Chemical Characteristics of Ambient Aerosols related to Adverse Health Effect

- PM_{2.5}や黄砂粒子は生体に深刻な被害を及ぼす可能性があることが指摘されています。本研究では、バーチャルインパクターとダブルサイクロンを用いたPM_{2.5}と黄砂粒子の大流量同時採取システムの開発を進めています。本装置による、国内外の公的機関や世界中の環境研究者による研究用途の広がりを期待しています。
- Many mega-cities around the world are adversely affected by air pollutants such as aerosols. A new concept of sampler can collect a large amount of aerosol particles in a "powder form". This sampler can contribute to the elucidation of formation mechanisms and biological effect of aerosol particles.



High-Volume Simultaneous Sampler for PM_{2.5} and Coarse Particles



Development of an Attachment to Improve the Collection Efficiency of PM

製品化・事業化イメージ

- 本研究に関連する環境技術は日本国内のみならず中国・アジア諸国において大きな成長市場

連携の実績

- 民間企業との共同研究により「大流量PM_{2.5}採取装置」を開発、販売実績多数
- 医学系研究者との共同研究により、PM_{2.5}による新たな生体影響の可能性を学術論文にて報告

関連する知的財産

- 「エアロゾル捕集装置」特許出願中

研究紹介HP : <http://www.applc.keio.ac.jp/~okuda/>

メールアドレス : okuda@applc.keio.ac.jp



准教授 牧 英之

マキ ヒデユキ
博士 (工学)

Associate Professor
MAKI, Hideyuki
Ph.D.

ナノ物質/ナノデバイス/材料物性

ナノ物質とデバイス開発をキーワードとして、無機・有機材料を用いたナノ物質の創製やナノ物質を用いた新機能デバイス開発、デバイス構造作製によるナノ物質の物性解明に関する研究を行う。ナノ物質の物理的・化学的特性を利用することで、量子輸送観測、電解・磁場・応力などの外部入力による電子状態制御、新規光・電子デバイス開発など、バルクのデバイスでは得られない新しい物性探索やデバイス開発を目指す。

This laboratory focuses on the design of organic and inorganic nanomaterials, development of new functional devices with nanomaterials, and investigation of physical properties of nanomaterials by device operation. Physical and chemical properties of nanomaterials are positively applied to observation of quantum transport, control of electronic state with external input such as electric field, magnetic field and stress, and development of new optoelectronic devices.

連携を希望するテーマ

ナノカーボン材料を用いた次世代の光・電子デバイス開発

Optoelectronic devices based on nanocarbon materials

- ・ ナノカーボン (カーボンナノチューブ・グラフェン) を用いた超高速・オンチップ・高集積発光素子
- ・ ナノカーボン受光素子
- ・ 極細超伝導ナノワイヤーと量子デバイス開発
- ・ エレクトロクロミック描画・表示デバイス
- ・ High-speed, on-chip, integrated light emitters and detectors based on nanocarbon materials
- ・ Superconducting nanowire devices based on carbon nanotubes
- ・ Electrochromic display device

製品化・事業化イメージ

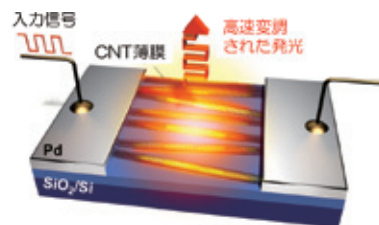
- ・ 超高速・オンチップ発光・受光素子を用いた光技術 (近赤外、中赤外)
- ・ 室温・通信波長帯の単一光子源を用いた量子暗号通信
- ・ 超伝導デバイス (検出器・量子コンピュータ)
- ・ エレクトロクロミック描画・表示デバイス

連携の実績

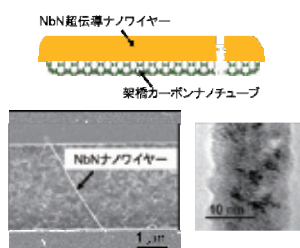
- ・ ナノカーボンを用いた発光素子開発
- ・ 量子暗号に向けたナノカーボンデバイス

関連する知的財産

- ・ ナノカーボン材料による超高速・超小型発光素子
- ・ エレクトロクロミック描画・表示装置



超高速・オンチップのカーボンナノチューブ発光素子



架橋カーボンナノチューブ上に作製した超伝導ナノワイヤーデバイス



エレクトロクロミック描画デバイス

研究室HP : <http://www.az.appi.keio.ac.jp/maki/>

メールアドレス : maki@appi.keio.ac.jp



准教授 神原 陽一

カミハラ ヨウイチ
博士 (工学)

Associate Professor
KAMIHARA, Yoichi
Ph.D.

超伝導/相転移/磁性/電子構造/新物質

高温超伝導を示す化合物の「発見」を主目的とし、結晶性(純度、組成の均一性)の高い試料の合成と評価を行い、得られた結晶の局所構造(サブナノ構造)と電気的性質・磁性との相関を明らかにする。固体中に存在する電子と格子の物理を真摯に観察することで、先端の電子材料を実証する研究グループを目指します。

Our primary purpose is discovery of new superconductors (e. g. MgB₂, iron-based oxypnictide, cuprate). An approach to the purpose is improvements of sample synthesis procedures using solid state reaction & characterizations of inorganic materials. We focus on a relation between crystallographic "local" structures (a factor of hyperfine structures) and electronic and/or magnetic structures of homogeneous crystals. This approach is the most reliable way to demonstrate new electronic materials.

連携を希望するテーマ

高温超伝導線材開発と多機能な材料探索

Research on superconducting wires with high T_c and multi-functional materials

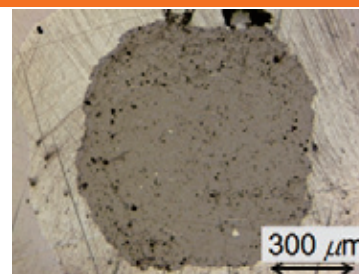
- ・ 鉄系高温超伝導体を用いた超伝導線材の応用
- ・ 無機化合物間界面におけるボルツマン-侯野解析
- ・ 室温以上での使用を目的とした新規熱電変換材料の研究
- ・ 多元系新規層状磁性材料の研究
- ・ 触媒の気体吸着に対する計算機科学による解析
- ・ Application of iron-based superconducting wires
- ・ Boltzmann-Matano analysis on boundary between a superconductor and a metal
- ・ A research on novel thermoelectric conversion materials at $T >$ room temperature
- ・ A research on novel layered magnetic materials with multinary system
- ・ Computational approach for an activation energy in adsorption process

製品化・事業化イメージ

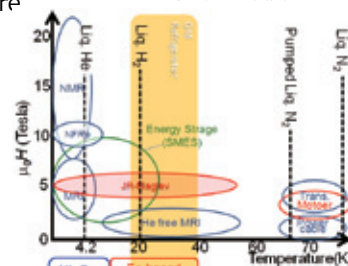
- ・ 強磁場発生用の超伝導マグネット
- ・ 酸化物高温超伝導体の低温合成による線材作製の低コスト化

関連する知的財産

- ・ 特許第5196339号 超伝導化合物及びその製造方法
- ・ 特開2016-58725 層状ピスマスカルコゲナイド系熱電変換材料及びその製造方法



超伝導線材の断面図



各種超伝導線材の応用が期待される製品

研究室HP : <https://sites.google.com/site/2010mklab/>

メールアドレス : kamihara_yoichi@keio.jp



准教授
塚田 孝祐
ツカダ コウスケ
博士 (工学)・博士 (医学)
Associate Professor
TSUKADA, Kosuke
Ph.D.

生体工学／光・画像工学

生体分子や細胞機能をレーザーを用いて光計測する技術や、生体分子を人為的に制御する技術、病態で特異的に変化する分子を特定するセンサやデバイス開発について研究しています。またこれらを癌の早期診断・治療に応用する研究をしています。理工学と医学の学問の領域を超えた目的主導型の研究を目指しています。

The mission of this laboratory is to develop (1) techniques to measure biomolecules and cell functions with lasers, (2) techniques to regulate the biomolecules artificially and (3) novel devices and sensors to detect specific molecules in disease. We will apply these techniques to develop a system for early diagnostics and therapy of cancer. We will achieve aim-driven research which cut across medical, biological and engineering fields.

物理情報工学科

連携を希望するテーマ

光技術を基盤とした新たな医療技術の開発

Development of novel medical devices based on optical engineering

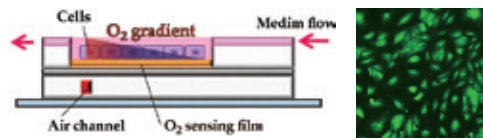
- 短パルスレーザーを用いた腫瘍低酸素の3D画像化システム
- 肝臓や腫瘍組織の微小環境を再現するMEMS細胞培養装置の開発
- 安全なワクチン接種を実現するレーザーアジュバント法の開発
- 磁性ナノ粒子の表面増強ラマン散乱光を用いたバイオセンサ開発
- 電気化学発光を利用したフィルム型酸素センサの開発と医療応用
- Hypoxia imaging in tumor with short pulsed lasers
- Cell culture microdevices mimicking hepatic and tumor microenvironments
- Establishment of laser adjuvant for safe vaccination
- Development of biosensors using SERS with magnetic nanoparticles
- Film-type oxygen sensor based on electrochemiluminescence

製品化・事業化イメージ

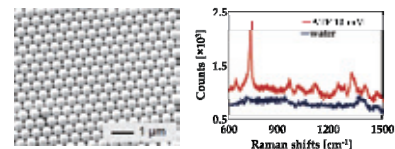
- 自在に酸素濃度を制御できる細胞培養装置への応用
- 副作用を低減するレーザーアジュバントの開発とワクチン接種事業への展開
- 短時間に高感度で目的分子・細胞を検出できる検査キットの開発
- ヘモグロビンに依存しない新たな酸素センサの開発

連携の実績

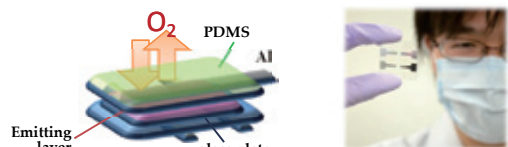
- レーザーアジュバントの実現に向けた低出力レーザー照射装置



自在な酸素勾配を形成する培養デバイス(左)と培養細胞(右)



表面増強ラマン散乱(SERS基板, 左)とATPの検出(右)



電気化学発光を利用した酸素センサ(左)とフィルム化の検討(右)

研究室HP : <http://www.bmel.appi.keio.ac.jp>

メールアドレス : ktsukada@appi.keio.ac.jp

慶應義塾先端科学技術研究センター



助教
堀 豊
ホリ ユタカ
博士 (情報理工学)
Assistant Professor
HORI, Yutaka
Ph.D.

制御理論／合成生物学／最適化

微生物をプラットフォームとする遺伝子回路システムを工学的に設計し、制御するための工学理論および基盤実験技術の研究をしています。制御理論や最適化を軸とする理論ツールと遺伝子工学技術の連携により、大規模な遺伝子回路を系統的にモデル化・解析・設計可能な「遺伝子回路システム工学」の確立を目指します。

Our research aims to establish an engineering-oriented mathematical and experimental framework to design and implement synthetic biomolecular systems that perform complex dynamic tasks on microbial platforms. We use mathematical techniques from feedback control and optimization theory and develop theoretical tools for model identification, analysis and feedback design of large-scale biomolecular circuits. Development of experimental platforms is also of our interest to facilitate the bio-system design process.

連携を希望するテーマ

工学・生物システムの数理モデルベース最適化

Model-based optimization of engineering and biological systems

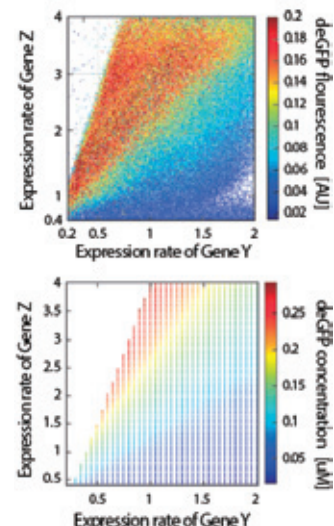
- 生化学反応の数理モデル化と解析による生物生産の最適化
- 遺伝子組換え生物を用いた革新的システム (化学センサ等) の開発
- 遺伝子回路を解析するためのマイクロ流路プラットフォームの開発
- 各種マーケットダイナミクスの解析と意思決定支援のための数理モデル構築
- Mathematical modeling and optimization of bio-production
- Engineering innovative microbial systems using synthetic biocircuits
- Building microfluidic platforms for analyzing synthetic biocircuits
- Building mathematical models for market dynamics analysis and decision making

製品化・事業化イメージ

- 遺伝子組換え反応系の開発プラットフォーム(シミュレータ・マイクロリアクタ等)
- 遺伝子組換え微生物を用いた創薬・燃料生産等の実用化と効率化
- 動的なマーケット情報に基づく意思決定支援のためのソフトウェア

連携の実績

- 数理モデルを用いた生物生産の予測と最適化 (企業との共同研究)



マイクロ流路による遺伝子組み換え生化学反応のパラメータスクリーニング(上)と数理モデルによる最適化(下)

研究室HP : <http://bi.appi.keio.ac.jp/~yhorii/>

メールアドレス : yhorii@appi.keio.ac.jp

物理情報工学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



教授
山口 高平
ヤマグチ タカヒラ
工学博士
Professor
YAMAGUCHI, Takahira
Dr. Eng.

統合知能、エンドユーザ向けAIプラットフォーム、ソーシャルロボット、オントロジー工学、知識マネジメント
Integrated Intelligence, AI Platform for End-Users, Social Robots, Ontology Engineering, Knowledge Management

連携を希望するテーマ

統合知能

Integrated Intelligence

- ・ エンドユーザのための人工知能アプリケーション開発プラットフォーム
- ・ 記号処理と信号処理の統合
- ・ マルチロボット連携
- ・ 業務プロセス、業務ルール、オントロジーの統合
- ・ 知識継承支援システム
- ・ AI Application Development Platform for End Users
- ・ Integration of Symbol Processing and Signal Processing
- ・ Multi-Robot Coordination
- ・ Integration of Business Processes, Business Rules and Ontologies
- ・ Knowledge Transfer Support Systems

製品化・事業化イメージ

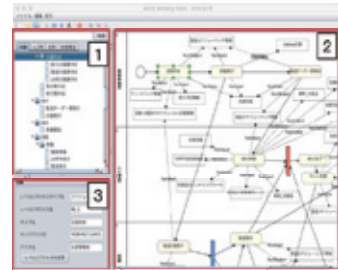
- ・ ロボット喫茶店・ロボットレストラン
- ・ 生産管理業務知識の体系化と利用
- ・ 新人教育支援システム

連携の実績

- ・ 業務ノウハウの体系化・組織的蓄積・活用を支援するオントロジー・システム構築
- ・ ETC故障診断における知識継承システム

関連する知的財産

- ・ 食事療法支援装置及び食事療法支援方法



生産管理業務知識工ディター



ロボット喫茶店

研究室HP : <http://www.yamaguti.comp.ae.keio.ac.jp/>

メールアドレス : yamaguti@ae.keio.ac.jp



教授
松川 弘明
マツカワ ヒロアキ
博士(工学)
Professor
MATSUKAWA, Hiroaki
Ph.D.

生産在庫管理／SCM／スケジューリング／プロジェクトマネジメント／製造戦略

生産在庫管理とサプライチェーンマネジメント(SCM)を中心に、スケジューリングや製造戦略など生産と物流にまつわる各種課題を取り上げ、定量的な手法を用いてマネジメントの原理原則を明らかにしています。また、近年は研究開発、循環型SCMや、サプライチェーンリスクマネジメントに関する研究も行っています。

Main research interests include production & inventory control and supply chain management (SCM). Continuous effort is dedicated to clarify principles of management on those research topics such as scheduling, manufacturing strategy, project management and other topics related to production and logistics. Quantitative methods were frequently applied for solving management problems. Closed-loop SCM and supply chain risk management are also great interesting topics.

連携を希望するテーマ

調達ネットワーク見える化、需要予測、および適正在庫水準の設定

Supply network visualization, Demand forecasting, and Proper Inventory level

- ・ 生産販売において重要なのは入口と出口、および内部の生産プロセスの管理である。入口管理で重要なのは調達ネットワークの見える化であり、出口管理で重要なのは需要予測である。そして内部生産プロセスにおいて重要なのは適正在庫水準の設定である。これらの要素を連携して管理する手法を開発し、テーラーメイドする。
- ・ Inbound/outbound management are important while internal production process management is also one critical management which may enhance competition power. We are eagerly expect to find partner to implement our research achievement as well as the associated system.

製品化・事業化イメージ

- ・ PCまたは携帯端末を用いた受発注システムの提供とデータ収集
- ・ 定量的予測手法のセットおよび定性的予測手法を組み合わせた予測
- ・ 適正在庫水準の計算方法の提供

連携の実績

- ・ サプライチェーン見える化システムの開発
- ・ SKUレベルでの欠品推定と需要予測
- ・ 農産品流通見える化システムの開発



サプライチェーン見える化システムの枠組み

研究室HP : <http://www.ae.keio.ac.jp/lab/ie/sou/>

メールアドレス : matsukawa@ae.keio.ac.jp



教授
松林 伸生
マツバヤシ ノブオ
博士 (工学)
Professor
MATSUBAYASHI, Nobuo
Ph.D.

応用ゲーム理論/ビジネス・エコノミクス/ネットワーク形成

競争環境下での企業の意思決定問題を、ゲーム理論をはじめとする経済学的アプローチにより分析する研究を行っています。具体的には、企業間の戦略的ネットワーク形成の問題や競争下でのマーケティング戦略等について取り組んでいます。「応用のための理論を構築する」ことを目指して研究を進めています。

This laboratory is focused on decision problems of firms in competitive environments. To model and analyze them theoretically, we mainly use a game-theoretic approach and other economics approaches. Our current interest includes strategic network formation and competitive marketing strategies.

連携を希望するテーマ

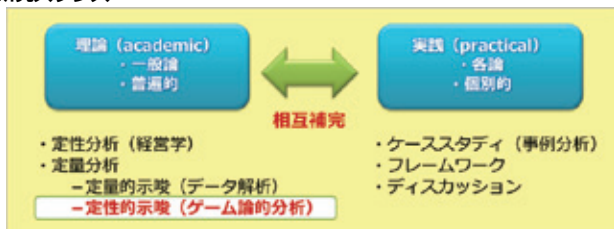
ゲーム理論による経営上の戦略的意思決定問題のモデル分析

Analysis for strategic decision making in business based on game-theory model

- ・ 価格戦略のモデル分析 (ネットワーク効果、プラットフォームビジネスなどを含む)
- ・ 製品戦略のモデル分析 (製品ラインナップ、カスタマイゼーションなどを含む)
- ・ マーケティングとサプライチェーンのインターフェース
- ・ ネットワーク形成、提携形成の理論
- ・ Model analysis of pricing strategy (network effect, platform business, etc.)
- ・ Model analysis of product strategy (product line, customization, etc.)
- ・ Marketing and supply chain interface
- ・ Theory of network/coalition formation

研究方法 (例: 新しいビジネスモデルの有効性)

研究スタンス



ビジネスにおける戦略的意思決定を、ゲーム理論を通じて理解する (示唆を与える) こと。また、そのためのモデル開発。(業務に必要な数値を直接得るための手法や技術開発ではない)



研究室HP : <http://www.ae.keio.ac.jp/lab/soc/matsubayashi/>

メールアドレス : nobuo_m@ae.keio.ac.jp

管理工学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



准教授
稲田 周平
イナダ シュウヘイ
博士 (工学)
Associate Professor
INADA, Shuhei
Ph.D.

経済性工学/インダストリアル・エンジニアリング/生産管理

様々な仕事のシステムを設計・改善するための基礎理論である“IE (Industrial Engineering)”や、将来の投資に関して方策を金銭的な面から評価してより良い案を見出すための理論となる“経済性工学”に基づいて研究を進めています。

This laboratory is focused on problem solving associated with production systems, optimization of production processes from an economic standpoint, investment theory for economically producing a product, analysis methods used in product design to improve productivity, and make-or-buy decision problems.

連携を希望するテーマ

Industrial Engineering理論をベースにした各種システムの生産性向上

Improving the productivity of the system by using Industrial Engineering theory

- ・ 自律的な改善機能を備えたロボット作業システムの研究開発
- ・ 生産システムにおける産業用ロボットの活用時の課題抽出
- ・ サービス・システムに対するIndustrial Engineering理論の活用
- ・ 不確実性下における製造投資案の経済性分析方法の提案
- ・ 生産システムの可視化方法と、そこでのデータ活用に関する研究開発
- ・ Robot work system equipped with the autonomous improvement function
- ・ Identifying problems of using the industrial robot in the production system
- ・ Applying Industrial Engineering theory to the service system
- ・ Economic analysis of the production investment under uncertainties
- ・ Developing visualization methods of the production system

製品化・事業化イメージ

- ・ 生産システムにおける知能ロボットの活用
- ・ AI技術を利用した作業測定・作業計画システムの開発
- ・ 企業内での継続性を持った改善活動プログラムの展開

連携の実績

- ・ 物流企業におけるQCDSの管理に向けたKPI指標の抽出
- ・ RFIDタグを利用した生産プロセスの可視化システムの開発



積み木の組立作業を自律的に改善するロボット

研究室HP : <http://www.ae.keio.ac.jp/lab/ie/inada/>

メールアドレス : inada@ae.keio.ac.jp

管理工学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



専任講師
飯島 正
Iijima Tadashi
博士 (工学)
Assistant Professor
IIJIMA, Tadashi
Ph.D.

ソフトウェア工学/エージェント技術/人工知能

人間が持っている知性、スキル、感性をエージェント技術のもとに計算モデル化することに興味を持っています。ビジネスプロセスやルールのモデリングとマイニング、避難行動シミュレーションなども研究しています。

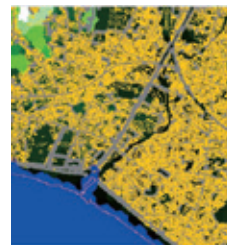
This laboratory is focused on computational modeling of human intelligence, skills, and kansei (sensing and emotional information processing) with agent technology. We are investigating about a business process and rule modeling and mining, and an evacuation simulation, too.

連携を希望するテーマ

ビジネスプロセスやビジネスルールのモデリングとマイニング

Modeling and mining of business processes and/or rules

- 組織にまたがったビジネスプロセスのためのオブジェクト指向ペトリネットによるモデリングとモデル検査
- ビジネスルールの日本語表現と視覚的再構成
- ログからのプロセスマイニング (プロセス発見)、頻出パターン抽出に基づくリエンジニアリング、法的基準等との適合性検査、例からの対話的モデリング環境
- Modeling and Validation of Inter-organizational Business Process by Object-oriented Petri-net and Model-checking
- Japanized Domain Specific Language for Business Rules and its Visual Restructuring
- Process Discovery, Process Reengineering and Conformance Checking by Process Mining Techniques



広域災害に対する
避難計画立案支援

文脈に基づくセキュリティモデルの応用

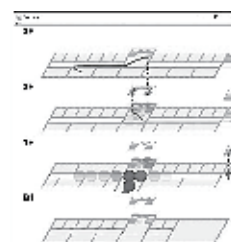
Applications of Context-aware Access Control Model

- セキュリティポリシーとビジネスプロセスの統合
- Integration of Security Policy and Business Process by Context-aware Access Control Model

広域災害避難計画支援と屋内災害避難行動支援

Evacuation Support by IoT Sensors and Simulation

- シミュレーションと地理情報による広域災害のための避難計画と設備配置の立案支援
- IoTセンサとシミュレーションによる屋内災害からの避難行動支援
- バーチャルリアリティによる避難スキル向上訓練
- Evacuation Planning Support for Wide-area Disaster by Simulation and Geographic Information
- Evacuation Behavior Support for Indoor Disaster by IoT Sensors and Simulation
- Training of Evacuation Skill by Virtual Reality



屋内災害からの
避難行動支援

研究室HP : <http://www.ijima.ae.keio.ac.jp/>

メールアドレス : ijima@ae.keio.ac.jp



専任講師
松浦 峻
Matsuura Shun
博士 (工学)
Assistant Professor
MATSUURA, Shun
Ph.D.

応用統計学/統計的品質管理/多変量解析

多変量解析や品質管理における統計学的手法の開発を中心に統計学の理論と応用に関する研究を行っています。具体的には、多次元確率分布の主要点の性質や推定に関する研究、選択的組立法、過飽和実験計画、応答曲面法、多変量管理図などを活用した統計的品質管理手法に関する研究などに取り組んでいます。

This laboratory studies the theory and applications of statistics, focusing mainly on the development of statistical methods for multivariate analysis and quality control. Recent research interests include the properties and estimation of principal points of multivariate distributions and statistical quality control using selective assembly, supersaturated designs, response surface methodology, multivariate control charts, etc.

連携を希望するテーマ

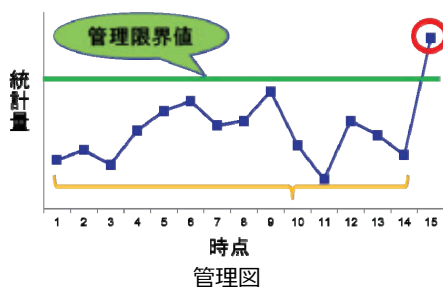
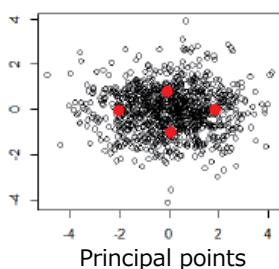
統計解析・多変量解析手法を用いた品質改善

Quality improvement using statistical and multivariate analysis

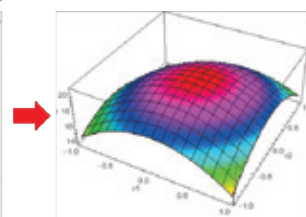
- 調査誤差因子実験、過飽和実験計画の活用による実験回数の削減
- 応答曲面法、多応答モデル同時推定、多変量管理図による品質管理
- Principal points (主要点) による多変量データ分布の要約・クラスタリング
- Cost reduction using compound noise experiments and supersaturated designs
- Quality control using response surface method, simultaneous estimation of multiple response models, and multivariate control charts
- Summarization and clustering of multivariate distributions using principal points

		x_1	x_2	応答平均	応答分散
x_1	x_2	57.00	42.51	50.06	56.93
1	1	60.64	39.15	49.90	115.46
1	-1	51.62	48.14	49.88	3.03
-1	1	54.28	45.09	49.69	21.11
-1	-1				

調査誤差因子実験



x_1	x_2	y
1	1	14.6
1	-1	15.0
-1	1	10.7
-1	-1	15.5
1	0	18.6
-1	0	15.9
0	1	17.1
0	-1	17.3
0	0	20.8



メールアドレス : matsuura@ae.keio.ac.jp



教授
佐々田 博之
ササダ ヒロユキ
理学博士
Professor
SASADA, Hiroyuki
Ph.D.

レーザー分光／サブドップラー分解能分子分光／量子エレクトロニクス／
光周波数コム／共振器増強分光

レーザー分光法を駆使して高感度サブドップラー分解能スペクトルを観測し、光・原子・分子の物理を研究している。特に、広い同調波長域をもつ中赤外領域の狭線幅光源を開発し、光周波数コムを用いて1桁の精度で遷移周波数を測定している。

This laboratory focuses on highly sensitive sub-Doppler resolution molecular spectroscopy using a waveguide PPLN, an optical cavity absorption cell, and an optical frequency comb, which allow us to determine the transition frequencies with a relative uncertainty of 10^{-11} level.

連携を希望するテーマ

レーザー分光法による微量気体試料分析

Trace gas detection with laser spectroscopy

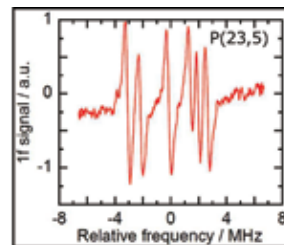
- 波長3μm帯の赤外分光
対象分子 メタン、塩化水素、ハロゲン化メチル
- 光共振器吸収セルによる高感度高分解能検出
- Infrared spectroscopy in the 3-μm region
Target molecules; Methane, Hydrogen Chloride, Methyl Halide
- Sensitive and high resolution detection using an enhanced-cavity absorption cell

製品化・事業化イメージ

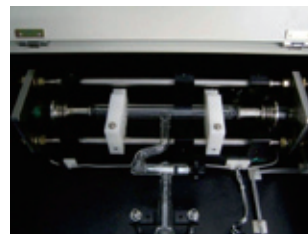
- ガス漏れモニター
- 環境計測

連携の実績

- 同位体計測（東京工業大学）



ヨウ化メチル分子のスペクトル



光共振器吸収セル

研究室HP : <http://www.phys.keio.ac.jp/guidance/labs/sasada/sasada-lab.html>

メールアドレス : sasada@phys.keio.ac.jp

物理学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



准教授
渡邊 紳一
ワタナベ シンイチ
博士（理学）
Associate Professor
WATANABE, Shinichi
Ph.D.

光物性物理学／半導体量子構造／低次元有機物性／テラヘルツ分光／超高速分光

半導体量子物性や低次元有機物性など、固体中の電子系の次元を制御することによって現れる様々な物性物理現象を、テラヘルツ帯域から可視光域にまたがる幅広い周波数域の光計測によって明らかにしてゆきます。また新規テラヘルツ光源開発や物質構造設計などによる新しい光物質制御の可能性を追求します。

We investigate the optical properties of solids, especially the low dimensional electronic systems, by using the broadband (from terahertz to visible) and ultrafast spectroscopy techniques. We also seek for the novel light-matter interaction in solids achieved by the intense terahertz light excitation.

連携を希望するテーマ

テラヘルツ偏光イメージング・スペクトル計測による樹脂材料の内部異方性検査

Nondestructive inspection of internal anisotropy in polymeric materials by terahertz polarization imaging and spectroscopy

- 可視光を通さない樹脂材料の、テラヘルツ光による内部物性計測
- 外力下での樹脂材料の内部異方性変化
- 計測の高速性を活かした樹脂内部ひずみの動的変化の追跡
- 産業用ポリマーの基礎物性評価
- Nondestructive inspection of internal anisotropy, strain, and strain dynamics in polymeric materials by terahertz polarization spectroscopy
- Basic evaluation of the physical properties of industrial polymers

製品化・事業化イメージ

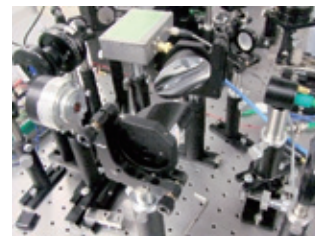
- 生産ラインで実施する樹脂材料の非破壊検査
- 樹脂材料の動的ひずみ計測

連携の実績

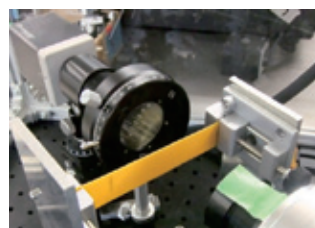
- 樹脂関連材料の異方性検査

関連する知的財産

- 高速・高精度にテラヘルツ電磁波の偏光計測を行う手法
- 光コムを用いた近赤外精密偏光計測手法



テラヘルツ偏光スペクトル計測装置



樹脂材料の内部異方性検査

研究室HP : <http://www.phys.keio.ac.jp/guidance/labs/watanabe/index.html>

メールアドレス : watanabe@phys.keio.ac.jp

物理学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



専任講師
関口 康爾
 セキグチ コウジ
 博士 (理学)
 Assistant Professor
SEKIGUCHI, Koji
 Ph.D.

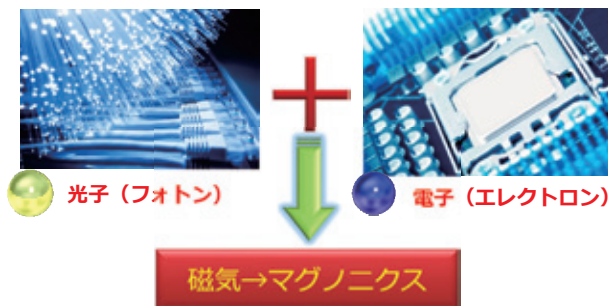
強磁性体では電子系のスピン自由度が偏極しており、相対論と量子論の間の子であるスピンの主役となります。超微細加工技術によるナノ磁性構造作製、高周波・極低温実験などの手法を駆使して、固体中の電子スピンの、素励起マグノン・フォノンなどと織りなす多彩な物理現象を実験的に研究しています。

We study novel spin dynamics in nano-scaled magnets. Utilizing the ultrafine-patterning technique and RF measurements, we seek the novel interaction between electron-spin and magnon/phonon.

連携を希望するテーマ

光と電気によるマグノニクス
 Magnonics in cooperation with optics and electronics

- ・ スピン波による信号伝送
- ・ 磁気トランジスタ (マグノトランジスタ)
- ・ マグノンによる熱・光エネルギーハーベスティング
- ・ マグノンによる帯域可変高周波フィルター
- ・ Spin wave logic architecture/ magnon logic operation
- ・ Magnonic transistor
- ・ Magnon energy harvesting from photo-/thermal- energy
- ・ Development of High frequency filter up to GHz-THz range



製品化・事業化イメージ

- ・ 電気エネルギーを90%以上削減する信号処理技術の開発
- ・ ワンチップでGHz-THz帯へ到達する高周波処理技術の開発
- ・ GHz-THz帯域での物質パラメータに依存しない高周波フィルターの開発

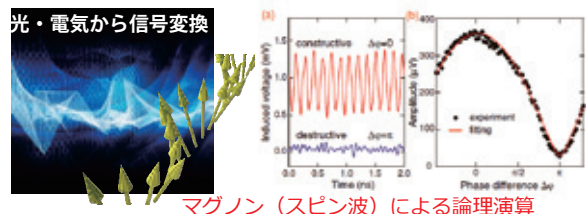


図1: フォトニクスとエレクトロニクスの融合領域であるマグノニクスは、超低電力・高周波デバイス原理の可能性を有する。

メールアドレス: koji_s@phys.keio.ac.jp



専任講師
千葉 文野
 チバ アヤノ
 博士 (理学)
 Assistant Professor
CHIBA, Ayano
 Ph.D.

単体から高分子系まで、物質の新しい構造を実験によって探索しています。主として液体やガラスを扱い、原子スケールからナノスケールまでの構造を研究しています。その構造や相転移の背後にある物理の解明を目指すと同時に、応用展開を考えています。特に圧力効果に注目しています。

We study materials ranging from elemental to polymer systems and look for new structures particularly in disordered systems. We aim to find physics and basis behind the new structural transitions and we also set out to develop industrial applications. Our main experimental method is structural analysis of disordered systems under pressure.

連携を希望するテーマ

高分子溶融体・ガラスの圧力誘起構造変化
 Pressure-induced structural change of polymer melts and glasses

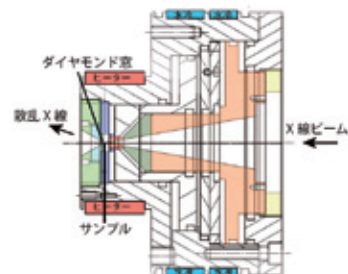
- ・ 多孔性液体としての溶融高分子
- ・ 1種類の高分子による2種類の高分子ガラス固体の作成
- ・ エントロピーカが駆動する高分子中の空隙への分子吸着
- ・ 選択的分子吸着
- ・ Polymer melts as porous liquids
- ・ Two kinds of polymer glasses made from one polymer
- ・ Molecular adsorption into voids in polymers driven by entropic force
- ・ Selective uptake of molecules

製品化・事業化イメージ

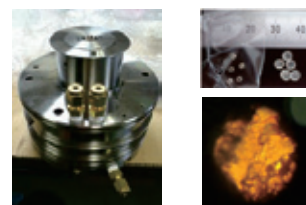
- ・ 選択的に吸着される分子が温度・圧力等の熱力学的条件で変化するフィルターの開発
- ・ 高分子単結晶への分子吸着による非等方性材料の開発
- ・ グラファイトを用いた非等方性材料の開発

連携の実績

- ・ 企業との共同研究実績「黒鉛材料の中性子照射による構造変化の評価」(2009年~)



高温高圧セル (広島大学 彦坂方式)
 用途: X線回折、顕微鏡観察、FT-IR



高温高圧セル
 高分子P4MP1試料 (上)
 圧力誘起結晶化 (下)

研究室HP: <http://www.phys.keio.ac.jp/faculty/ayano/ayano.html>

メールアドレス: ayano@phys.keio.ac.jp



教授
中嶋 敦
ナカジマ アツシ
理学博士
Professor
NAKAJIMA, Atsushi
Dr. Sc.

光応答、触媒反応性、磁性といった物質機能の最小単位は、原子数にして数10から千個程度のナノメートルの大きさの集合体（ナノクラスター）です。わたしたちは、原子・分子からなる複合ナノクラスターの新奇な構造と光物性、反応性、磁性を探索し、ナノ機能材料科学の基盤を構築し、新しいシステム化学を先導することを目指しています。

This laboratory is focused on nano-meter scale aggregations of "clusters" consisting of 10-1000 atoms that are well recognized as minimum units for optical, catalytic, and magnetic functions. Research is aimed at developing new next-generation nanoscale cluster materials exhibiting novel optoelectronic and catalytic properties, opening up "Systems Chemistry".

連携を希望するテーマ

複合ナノクラスター機能材料の開発

Creation of Designer Nanocluster Functional Nanomaterials

- ・ ナノクラスターの大量合成と集積手法の開発
- ・ ナノクラスター集積体の物性機能解析
- ・ ナノクラスターを配列集積させた新規なデバイスの作製
- ・ Large-scale synthesis of designer functional nanoclusters
- ・ Characterization of nanocluster assembled systems
- ・ Nanodevice application of nanocluster-assemblies

製品化・事業化イメージ

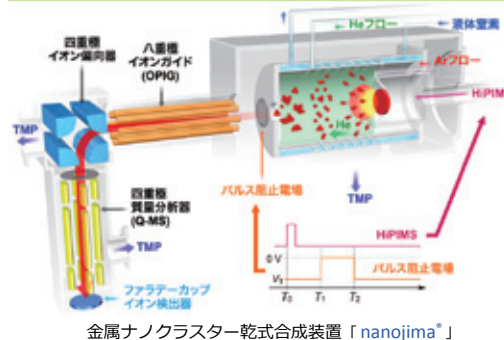
- ・ 複合ナノクラスターの大量合成法の装置開発
- ・ ナノクラスター機能材料によるシステムデバイス構築

連携の実績

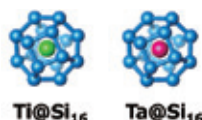
- ・ 企業との共同研究実績
「金属ナノクラスター乾式合成装置の開発」、2015年～2016年
「機能ナノクラスター分散液の製造装置の開発」、2017年
「超精密マイクロミキサーの開発」、2011年～2017年

関連する知的財産

- ・ ナノクラスター生成装置（特許第5493139号、国際公開WO2014/192703 米国：US14/893,775、欧州：EP14803503.3） 「nanojima®」の開発
- ・ マイクロミキサー、マイクロミキサーエレメント及びその製造方法 3件（特許第5864236号、特許第6006969号、ほか）



金属ナノクラスター乾式合成装置「nanojima®」



複合ナノクラスターの例
金属内包シリコンケージ
ナノクラスター-M@Si₁₆
(M=Ti (左)とTa (右))



超精密マイクロミキサーの外観

研究室HP : <http://sepia.chem.keio.ac.jp/Nakalab/>

メールアドレス : nakajima@chem.keio.ac.jp



教授
近藤 寛
コンドウ ヒロシ
博士 (理学)
Professor
KONDOH, Hiroshi
Ph.D.

物質の表面はバルクとは異なる多くの興味深い現象を誘起することが知られています。私たちは、放射光を用いて、表面での化学反応を調べる新しい手法の開発に取り組んでいます。これを用いて、表面での分子プロセスが鍵となる環境触媒やエネルギー変換触媒などの機構解明を行っています。

It is well known that the surface of matter induces a number of interesting phenomena that are not seen for the bulk. We have been developing synchrotron-radiation-based new techniques to study chemical reactions at surfaces. We have been applying these techniques to mechanistic studies on environmental catalysts and energy-conversion catalysts, where molecular processes at the surfaces play key roles.

連携を希望するテーマ

放射光オペランド観測による触媒機構の解明

Elucidation of catalytic mechanism using synchrotron-based operando observation

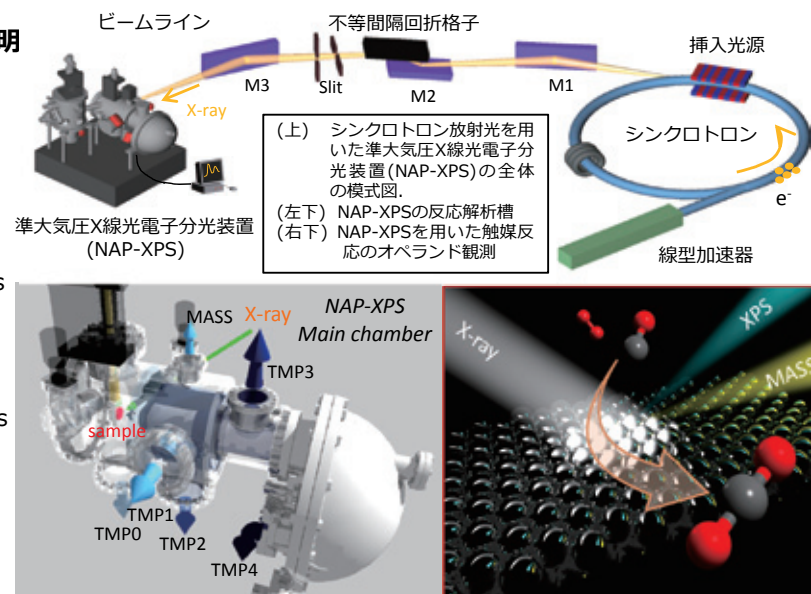
- ・ 新規オペランド観測手法の開発
- ・ 下記触媒の機構解明
自動車排ガス浄化触媒
固体電解質形燃料電池
化学品合成触媒
- ・ Development of new operando techniques
- ・ Elucidation of mechanism of following catalysts
Automobile catalysts for exhaust gas
Solid electrolyte fuel cell
Synthesis catalyst for chemical products

製品化・事業化イメージ

- ・ 実触媒のオペランド観測に基づく触媒制御技術の改良や新規触媒の開発

連携の実績

- ・ 企業との共同研究実績：排ガス触媒、燃料電池



(上) シンクロトロン放射光を用いた準大気圧X線光電子分光装置(NAP-XPS)の全体の模式図。
(左下) NAP-XPSの反応解析槽
(右下) NAP-XPSを用いた触媒反応のオペランド観測

研究室HP : <http://www.chem.keio.ac.jp/kondoh/index/jp/>

メールアドレス : kondoh@chem.keio.ac.jp



教授
青山 英樹
アオヤマ ヒデキ
博士 (工学)
Professor
AOYAMA, Hideki
Ph.D.

CAD/CAM/意匠設計/生産システム/
デジタルデザイン/デジタルマニュファクチュアリング

デジタルデザインシステムおよびデジタルマニュファクチュアリングシステムに関する研究を幅広く行っています。デザイナー・ユーザの感性や工学的な分析評価により製品をデザイン・設計するシステムの開発を試みています。また、工学的理論および熟練技能者の経験・知識に基づき高度な加工を実現する次世代の生産システムの開発を行っています。

This laboratory focuses on digital design systems and digital manufacturing systems. Systems which design products by engineering analysis and KANSEI of designers and customers are developed. Manufacturing systems which realize advanced machining based on engineering theory and experience-knowledge of skilled works are also developed.

連携を希望するテーマ

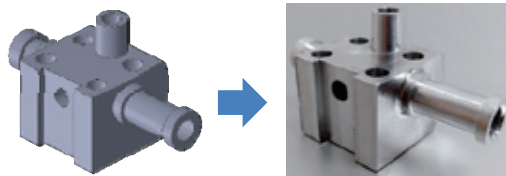
コンピュータを活用したデザイン技術、生産加工技術、金型技術

Design Technology, Manufacturing Technology, and Die/Mold Technology Using Computer

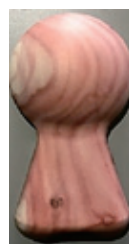
- 顧客の感性に基づく形状・意匠・模様デザインシステム
- 加工工程自動設計・自動NCプログラム生成システム
- 5軸加工機による超高効率曲面加工システム
- AI・IoT金型システム
- Design Systems of Styles and Patterns Based on KANSEI
- Automatic Process Planning System for Machining and Automatic NC Program Generation System
- Ultra-Efficient Machining System of Curved Surfaces Using 5-Axis Machine Tool
- AI/IoT Die and Mold System

連携の実績

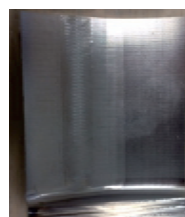
- インジェクション成形における加飾フィルムデザイン補正システムの開発
- NC加工における加工時間の正確な見積システムの開発
- AI-CADシステムの開発 (ジグ設計を例題として)
- 金属3Dプリンタ造形の高精度化システムの開発



CADデータから自動加工



加飾フィルムによる
木目模様成形



50倍の効率を実現した
曲面加工システム



成形不良の自動認識と
最適成形条件自動決定

研究室HP : <http://ddm.sd.keio.ac.jp/>

メールアドレス : haoyama@sd.keio.ac.jp



教授
西 宏章
ニシ ヒロアキ
博士 (工学)
Professor
NISHI, Hiroaki
Ph.D.

IPルーターアーキテクチャ/並列分散システムアーキテクチャ/ASIC, FPGAデザイン/
スマートグリッド・スマートコミュニティ/技術標準化

高度情報化社会が、今後どのようなアプリケーションをネットワークに求めるかを見定め、その実現に向けてハードウェアとソフトウェアを共に検討し、システムとして具現化することを目指している。現在、「次世代IPルーターアーキテクチャ」、「コンテンツセントリックネットワーク」、「スマートグリッド・スマートコミュニティ」を中心に研究を進めている。

The main theme of my research is in building of the total network system including development of hardware and software architecture. I place great importance on considering what is required for the highly-networked information society in future. I exert myself for research of the Next generation IP router architecture, Contents Centric Network, and Smart Grid/Smart Community.

連携を希望するテーマ

スマートコミュニティ実現に向けた地域実証・情報インフラ・データ処理・新サービス提案

Toward Smart Community: Local implementation, information infrastructure and data management for Novel Services

- 地方自治体・地域住民と取り組むスマートコミュニティ関連システム構築
 - EMS・BEMS・CEMS・データセンタ・スマートITSなどスマートインフラ構築
 - 関連技術の標準化 (IEEE・ITU)
- ルータ等10Gインターネット機器上でのTCPストリーム解析・各種エンコード展開・DPI・REGEX文字列探索等による情報抽出・匿名化・DB保存・APIの提供、およびスマートコミュニティ応用
- Implementation of Smart Community Systems with local governments and citizens
 - Smart infrastructure design including HEMS, BEMS, CEMS, Datacenter, Smart ITS
 - Standardization of concerning technologies and policies (IEEE, ITU)
- 10G Contents extraction using TCP stream analysis, decoding, DPI, REGEX string, and Contents anonymization, DB insertion, analysis, API for smart community applications

製品化・事業化イメージ

- 地方自治体や企業・団体など地域密着型のセキュリティ確保を含む様々なサービス展開
- マルチサイトレコメンドーション・ページ滞在時間など新指標によるレコメンドーション・
- フィッシング詐欺対策など概要和文

連携の実績

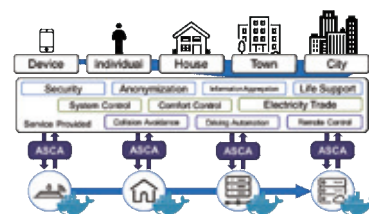
- エコHEMS・BEMS・CEMS、ZEH・ZEB・スマートタウンの構築
- サービス指向ルータ構築技術の提供およびコンテンツベースロードバランサ技術の共同構築
- 上記における機械学習応用

連携の実績

- 情報匿名化技術および快適性計測技術



Interoop2017での展示



スマートシティにおける情報インフラ

研究室HP : <http://www.west.sd.keio.ac.jp/>

メールアドレス : west@sd.keio.ac.jp



教授
滑川 徹
ナメリカワ トオル
博士 (工学)
Professor
NAMERIKAWA, Toru
Ph.D.

システム制御/分散・協調・予測制御/マルチエージェントシステムの協調制御/
エネルギーネットワーク・社会インフラの分散最適化

大規模複雑システムの最適管理のための分散協調制御理論とその応用に関する研究を行っています。具体的には、再生可能エネルギーを含む分散型電力ネットワークの分散最適制御、マルチUAVの分散協調フォーメーション制御、分散推定理論に基づく電力ネットワーク、社会インフラや超スマートシティの制御と管理に関する研究を推進しています。

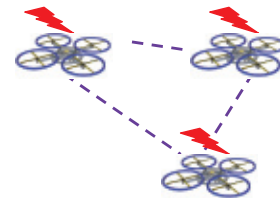
Distributed and cooperative control problems for large-scale networked systems are studied in Namerikawa laboratory via both of control theoretical and application approaches. The current main topic of Namerikawa Lab is the developments of safe, reliable and resilient control/prediction methodologies for electrical power network and smart city and smart infrastructure. The other important topic is the developments of cooperative formation control strategies for multi-agent systems including unmanned aerial vehicles.

連携を希望するテーマ

分散協調制御によるスマートエネルギーとスマート社会に関する研究

Distributed and Cooperative Control for Smart Energy and Smart Society

- ゲーム理論に基づくアグリゲータの意思決定と電力需要量管理
- リチウムイオン電池の充電率推定・管理・最適化
- 階層協調型モデル予測制御を用いた電力系統の周波数制御
- 分散型モデル予測制御によるマルチUAVシステムのフォーメーション制御
- リアルタイムロードプライシングを用いた高速道路における渋滞緩和
- Optimal Power Demand Management by Aggregator based on Game Theory
- State-of-charge Estimation, control and optimization of Lithium-ion Battery
- Hierarchical and Cooperative Model Predictive Control for Load Frequency of Power Network
- Formation Control for Multi-UAV System by using Distributed Model Predictive Control
- Traffic Congestion Control using Real-Time Road Pricing



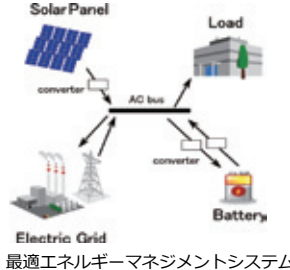
マルチUAVを活用した社会インフラシステム構築

製品化・事業化イメージ

- 最適エネルギーマネジメントシステム構築
- 複数ドローンのフォーメーション制御

連携の実績

- 電力需要/発電予測アルゴリズムの開発
- エネルギーマネジメントと最適制御



渋滞緩和のための交通制御と自動運転

研究室HP : <http://www.namerikawa.sd.keio.ac.jp>

メールアドレス : namerikawa@sd.keio.ac.jp

システムデザイン工学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



准教授
桂 誠一郎
カツラ セイイチロウ
博士 (工学)
Associate Professor
KATSURA, Seiichiro
Ph.D.

抽象化理工学/人間支援/波動システム/システムエネルギー変換

次世代の社会基盤と成り得る工学システムの高度化・高機能化を目指し、時間と空間の双方を考慮したシステムデザインの研究を行っている。特に、無限次元のモデリングと電機統合システムのエネルギー変換に基づいた革新的な抽象化理工学により、人間を直接支援するための複雑化されたシステムやロボット応用を目指している。

Katsura laboratory focuses on system design considering time and space for advancement of an engineering system in the future society. Especially, we are developing a novel synthesis method based on the infinite-order modeling and energy conversion of electromechanical integration systems. Such innovative abstraction science and engineering will be applied to complex systems and robots for direct and harmonious human support.

連携を希望するテーマ

「応用抽象化と総合デザイン」に基づく人間支援・産業応用

Applied Abstraction and Integrated Design and Their Applications to Human Support and Industries

- 波動システム (振動・温熱感覚・音) の制御
- ダイナミックアクチュエータ (超瞬発マシン)
- 人間支援のためのロボット
- Control of Wave Systems (Vibration, Thermal Sensation, and Sound)
- Dynamic Actuator (Instantaneous Power Machine)
- Robots for Human Support

製品化・事業化イメージ

理学は自然現象を無限に細かく解析する学問であるのに対して、工学は自然現象に人工物を付加し、機能の合成を行う学問である。工学には実現可能な時空間が有限であるという制約が存在することから、本質を大胆に抽出するモデリングと抽象化が重要になる。今後の超高齢社会における人間支援やエネルギー・環境問題など、複合化された問題の解決には複雑な機能の発現が必要になるため、新しい「応用抽象化と総合デザイン」方法論について産官学連携の下で検討を進めたい。

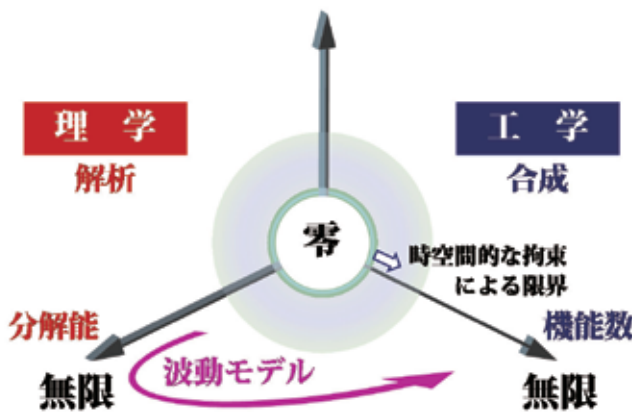
関連する知的財産

- 熱感覚伝送システム, 特許5954894号
- 振動制御装置、振動制御方法、振動制御システム及びプログラム, 特願2015-157780

研究室HP : <http://www.katsura.sd.keio.ac.jp/>

メールアドレス : katsura@sd.keio.ac.jp

応用抽象化と総合デザイン



システムデザイン工学科

慶應義塾先端科学技術研究センター



准教授
満倉 靖恵
ミツクラ ヤスエ
博士 (工学)
Associate Professor
MITSUKURA, Yasue
Ph.D.

生体信号処理 / 脳波解析 / 画像処理 / 画像意味解析 / 印象解析

当研究室ではマルチメディア信号処理や生体信号解析に関する研究を行っています。特に、AR/VRと生体信号を融合させた次世代情報提示システム、考えただけで思考を通信できるシステムを目指した基礎研究、非接触生体信号モニタリングによる睡眠段階判定、脳波によるオン・オフ制御、ストレス検出、眠気検出、感性認識、うつ病や認知症の医工学的研究に重点的に取り組んでいます。

This laboratory focus on various signal processing and it's applications. The current main topics of our research are new AR/VR system with bio-signal (EEG, EMG, EOG, ECG, GSR, Body temp. Breath, Salivary amylase, NIRS, fMRI), brain computer interfaces, new medical approaches for dementia or depression using simple EEG device, and impression & situation analysis of animation images.

連携を希望するテーマ

脳波による感性情報のオンライン簡易測定と革新的情報呈示手法

Online KANSEI evaluation method using the simple EEG

- 次世代型VR/ARシステムによる気持ちスイッチシステム、簡易型脳波計測による睡眠段階判定、脳波によるのり心地評価、生体信号による美味しさの評価、生体情報を用いた書きづらさの判定、脳波によるオンライン感性抽出、脳波によるストレス判定、眠気判定、うつ状態評価、認知症の評価 など
- New VR/AR system for switching the emotion, Sleepiness degree detection using the simple EEG, Difficulty detection using the EEG, Online Emotional detection using the EEG, BCI, new medical approaches for dementia or depression using simple EEG device, and impression & situation analysis of animation images

製品化・事業化イメージ

- これまでに定性的にしか測れなかったものを感性を使って定量化し、これに伴いストレスが下がるXX (製品名) 集中が上がるXX などの製品を目指す
- PSG装置を使用することなく睡眠の段階を判定する装置

連携の実績

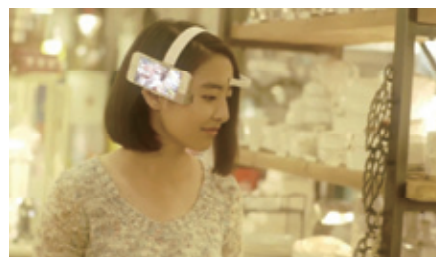
- 疲れないタイヤの開発、味覚判定装置、嗅覚判断システム、飲料摂取時のストレス判定、オンラインストレス解析、など 4 2例

関連する知的財産

- 乗り物振動検出方法および乗り物振動検出装置、自転車操縦性評価方法および評価装置、など



瞬時感性認識システム



オンライン気持ち認識と自動動画撮影システム (気持ちカメラ)

研究室HP : <http://mitsu.sd.keio.ac.jp/>

メールアドレス : mitsukura@sd.keio.ac.jp



准教授
田口 良広
タグチ ヨシヒロ
博士 (工学)
Associate Professor
TAGUCHI, Yoshihiro
Ph.D.

マイクロ・ナノ熱工学 / Optical MEMS / マイクロ光センサー

レーザーや近接場光を用いた新しい温度・熱物性計測技術はマイクロ・ナノスケールの熱制御 (サーマルシステムデザイン) を実現する。当研究室では、これら光学的計測技術の開発を行うとともに、微細加工技術との融合により極微小領域の新しい現象解明ならびに材料分野、バイオ医療分野への応用に取り組んでいる。

Novel optical thermometry and thermal property measurement techniques can enable a micro/nano-scale thermal system design. Our laboratory focuses on the development of measurement methods by using laser and near-field optics. Also by combining micromachining techniques, namely "Optical MEMS (Microelectromechanical Systems)", we are aiming to achieve a breakthrough in micro/nano technology in areas such as material science and biomedical engineering.

連携を希望するテーマ

レーザーを用いた熱物性センシング手法の開発

Development of Thermophysical Properties Sensing Method using Laser Technique

- 非接触・非破壊・高速な熱物性センシング技術
- 超小型熱物性センサー
- Optical MEMS技術を用いたデバイス開発
- Non-contact, Non-destructive and High-speed Thermophysical Properties Sensing
- Small Optical Sensor for Thermophysical Properties Measurement
- Novel Device using Optical MEMS

製品化・事業化イメージ

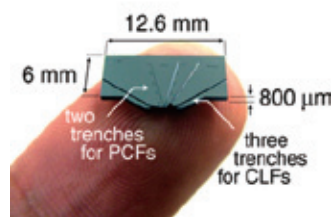
- 光学的熱物性センシング技術の提案
- Optical MEMS技術を用いたデバイス設計・開発

連携の実績

- 川崎市内中小企業との共同研究「OpticalMEMS技術を用いた機能性薄膜の開発」2014~2015



外乱に強い光学式センサーの開発



MEMS技術を用いた小型センサーの開発

研究室HP : <http://www.naga.sd.keio.ac.jp/>

メールアドレス : tag@sd.keio.ac.jp



准教授
須藤 亮

スドウ リョウ
博士 (工学)

Associate Professor
SUDO, Ryo
Ph.D.

組織工学/マイクロ流体システム/バイオエンジニアリング

マイクロ流体システムの設計とティッシュエンジニアリングへの応用を中心としたバイオエンジニアリングの研究を進めています。特に、肝臓や血管といった三次元組織の再生に取り組み、将来的には再生医療へ応用可能なバイオ人工臓器の開発、および、生命システムのもつ統合性について工学的に解明することを目標としています。

We work on the design and fabrication of microfluidic systems and their applications to in vitro tissue engineering. Specifically, we focus on reconstructing liver and vascular tissues in vitro through an integrative tissue engineering approach. Our goals are 1) to reconstruct bioartificial organs which can contribute to future regenerative medicine, and 2) to elucidate the engineering principles for the integrity of multi-cellular systems.

連携を希望するテーマ

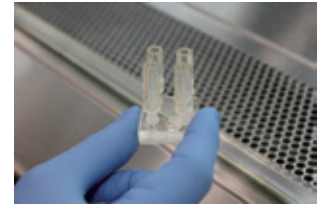
マイクロ流体デバイスを用いた微小培養環境制御による多細胞システムの構築

Development of multi-cellular systems by the control of microenvironments using microfluidic devices

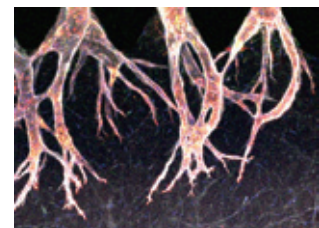
- マイクロ流体デバイスにおける血管化肝組織の再生
- 長期間安定な生体外毛細血管ネットワークの構築
- マイクロ流体デバイスにおける神経・血管ユニットの構築
- 3次元がん細胞浸潤モデルの開発
- Regeneration of vascularized liver tissues in a microfluidic device
- Construction of long-lasting capillary network in vitro
- Construction of neurovascular unit in a microfluidic device
- Development of 3D cancer invasion model

製品化・事業化イメージ

- マイクロ流体デバイスの要素技術（マイクロポンプや各種センサーなど）と組み合わせることにより細胞診断デバイスなどへの応用が考えられます。
- 生体内の環境に近い多細胞組織を再現することができるため、細胞診断や創薬研究などへの応用が考えられます。



マイクロ流体デバイス



長期間安定な生体外毛細血管ネットワーク

研究室HP : <http://www.sudo.sd.keio.ac.jp>

メールアドレス : sudo@sd.keio.ac.jp



助教
野崎 貴裕

ノザキ タカヒロ
博士 (工学)

Research Associate
NOZAKI, Takahiro
Ph.D.

パワーエレクトロニクス/モータドライブ/
モーションコントロール/センシング/多重化

多様な個人に対し柔軟に適応可能な物理的人間支援システムの実現を目指し、パワーエレクトロニクスを軸に駆動技術の高機能化に取り組んでいる。センシング、アクチュエーション、モーションコントロールに至る一連のシステムを総合的に設計することで、複数電動機への独立な電力供給や非定常駆動の高効率化を目指している。

My study focuses on improvement of drive technologies based on power electronics to realize physical human support systems, which can flexibly adapt to various individuals. I am especially working toward achievement of controlling multiple motors by multiplexing signals generated from a power supply and achievement of high-efficient drive in non-steady-state by designing a system from the view point of sensing, actuation, and motion control.

連携を希望するテーマ

高機能電気駆動システムの開発

Development of High Functional Electric Drive System

- 非接触給電
- 電気推進システム
- 電動機のセンサレス制御
- 電力変換回路
- Wireless Power Transfer
- Electric Propulsion System
- Sensorless Motor Drive
- Power Conversion Circuit

製品化・事業化イメージ

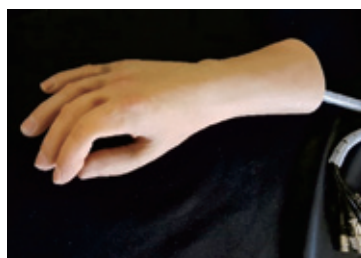
- センサレス制御による安価で堅牢なモータドライブシステムの開発
- 高精度な電流制御による人間に優しいデバイスの開発
- 高性能アクチュエーションによる医療・福祉システムの開発
- 状態推定による従来装置の高機能化

連携の実績

- 自動車・計測機器・空調機・建設分野など実績多数



パワーエレクトロニクス/モータドライブ/モーションコントロール技術



人に優しいデバイス (ロボット) の開発



研究室HP : <http://www.fna.sd.keio.ac.jp/jp/nozaki/nozaki.html>

メールアドレス : nozaki@sd.keio.ac.jp



教授
笹瀬 巖
ササセ イワオ
工学博士
Professor
SASASE, Iwao
Ph.D.

ブロードバンドワイヤレス通信/アドホック・センサネットワーク/
IoT/ネットワークセキュリティ

モバイル・ワイヤレス通信とIoT/セキュリティの研究分野の研究を行っています。主な研究テーマとしては、ブロードバンド移動通信・ワイヤレスアクセス方式、アドホック・センサネットワーク、IoT、ネットワークセキュリティなどがあります。

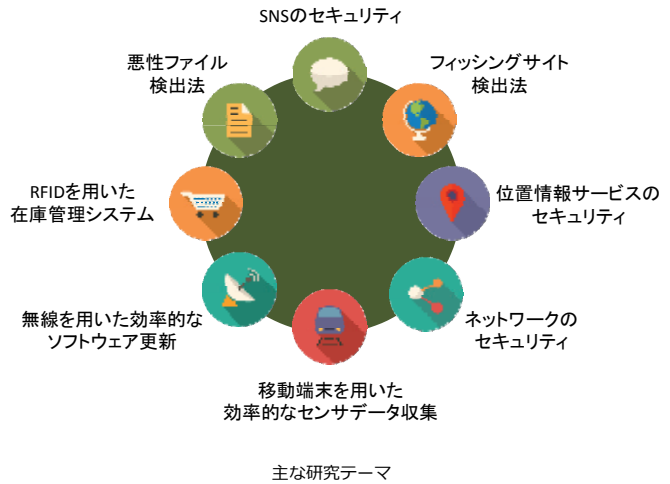
This laboratory focuses on broadband mobile and wireless communications, ad hoc network, sensor network, IoT and network security..

連携を希望するテーマ

IoTにおける安全なWebインターフェースおよび高効率なデータ配信方式
Safe web interface and high-efficient data delivery in IoT

Internet of Things (IoT) 実現に必要なアドホックネットワーク・ワイヤレスセンサーネットワークにおけるセキュリティ確保およびプライバシー保護に対して、主に、IoTにおける無線を用いた安全で効率的なソフトウェア更新などのデータ配信、webインターフェースにおける不正アカウント検知などに関する研究を行っています。詳しくは、研究室URL <http://www.sasase.ics.keio.ac.jp>をご覧ください。

Our research themes are mainly focused on the issues of security & privacy in ad hoc and wireless sensor network to realize Internet of Things (IoT), such as a safe and efficient software renewal using wireless, and a safe inventory check and privacy protection on web interface, etc. For more information, please see our laboratory URL <http://www.sasase.ics.keio.ac.jp>.



研究室HP : <http://www.sasase.ics.keio.ac.jp>

メールアドレス : sasase@ics.keio.ac.jp



教授
寺岡 文男
テラオカ フミオ
博士 (工学)
Professor
TERAOKA, Fumio
Ph.D. in Engineering

インターネット/分散システム

モバイル&ユビキタス時代を見据えたインターネット及び分散システムの研究を行っている。現在のインターネットはさまざまな要求に応えられなくなっている。そこでモバイル、ユビキタス、耐障害性、セキュリティなどの観点からインターネットアーキテクチャを見直し、その上で動作する分散システムの構築を目指している。

This laboratory focuses on Internet architecture/protocols and distributed systems which lead to coming mobile and ubiquitous era. The current Internet cannot support various demands. This laboratory aims at redesign of Internet architecture in terms of mobility, ubiquity, fault tolerance, security, and privacy. In addition, this laboratory aims at building distributed systems as applications running on the Internet.

連携を希望するテーマ

ネットワークアーキテクチャの再構築
Reconstruction of Network Architecture

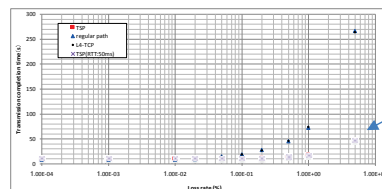
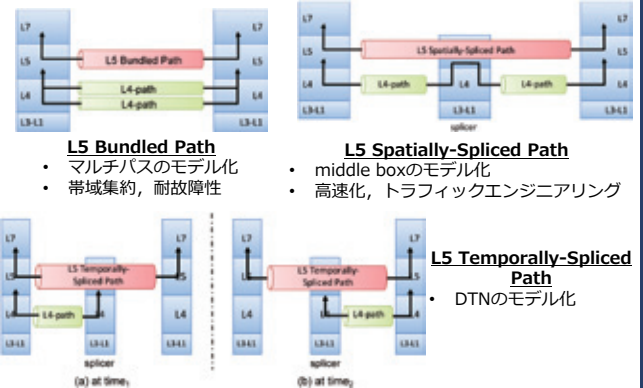
- Layer-5の新設：高速化，耐障害性向上，ポリシーの適用，DTN (Delay/Disruption Tolerant Networking)
- Information Centric Networking: 位置非依存なコンテンツ名指定による効率の良いコンテンツの取得
- 上記技術の5GコアネットワークやIoT (Internet of Things)への応用
- Layer-5 insertion: performance enhancement, fault tolerance, applying policies to traffic, DTN (Delay/Disruption Tolerant Networking)
- Information Centric Networking: efficient content retrieval with location-independent content name
- Application of these technologies to 5G core network and IoT

製品化・事業化イメージ

- 5GネットワークやIoTにおける新サービスの創成

連携の実績

- 上記以外の研究テーマによる複数企業との共同研究



L5 Temporally-spliced pathにより、低品質リンクを含む通信路において、既存手法と比較してファイル転送時間を大幅に短縮。
(横軸：低品質リンクの packets 損失率, 縦軸：1GBファイルの転送時間)

研究室HP : <http://www.inl.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : tera@keio.jp



教授
萩原 将文
ハギワラ マサフミ
工学博士
Professor
HAGIWARA, Masafumi
Ph.D.

ニューラルネットワーク/ウェブインテリジェンス/言語工学/感性工学/機械学習

“会話のできるロボット頭脳”をめざしています。そのためには、画像、言語、人の感性の理解が重要です。これら各要素、および統合を目標に、基礎から応用まで幅広い研究を行なっています。ニューラルネットワーク、ウェブインテリジェンス、言語工学、感性工学、機械学習など多くの新しい技術が用いられます。

Our target is to create a robot brain capable of conversation. Image understanding, language understanding and human *kansei* understanding are important elements here. We are doing wide range of researches not only on these fundamental elements but also to integrate them. Many technologies such as neural networks, Web intelligence, natural language processing, *Kansei* engineering and machine learning are employed.

連携を希望するテーマ

画像、言語、感性を統合したインターフェース
Interface integrating image, natural language and *kansei*

- 深層学習と言語処理を用いた画像解釈
- 感情分析
- 常識の自動獲得とその応用
- 自動対話システム
- 感性データ解析
- 配色に関係したデザイン
- Image understanding using deep learning and language processing
- Emotion analysis
- Automatic acquisition of common sense and its applications
- Automatic conversation system
- *Kansei* data analysis
- Color-related design

製品化・事業化イメージ

- 領域知識を有する各種インターフェース
- 対話によるインターフェース
- データからの知識発見

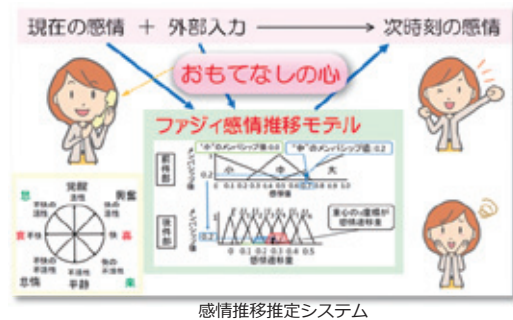
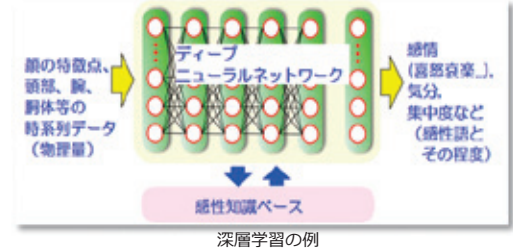
連携の実績

- 時系列データからの傾向予測
- 時空間データからの知識抽出

常識自動判断の例

自転車を盗む	→	×
救急車に道を譲る	→	○
障害者をいたわる	→	○
お年寄りの荷物を持つ	→	○
お金を大切に使う	→	○
ピンポンタシユする	→	×
仏像を蹴る	→	×

○:良いこと, ×:悪いこと



研究室HP : <http://www.soft.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : hagiwara@soft.ics.keio.ac.jp



教授
山中 直明
ヤマナカ ナオアキ
工学博士
Professor
YAMANAKA, Naoaki
Ph.D.

光ネットワーク/インターネット/クラウド/スマートネットワーク

インターネットのインフラストラクチャ、特に光ネットワークの研究を行っています。光ネットワークは、スピードと距離の制限を大幅に緩和するので、データセンタと連携したIoTやネットワークロボットの研究を加速しています。特に、日米連携の研究は世界の産学官連携の研究センターとして活躍しています。研究テーマとしては、将来IPネットワークのアーキテクチャとフォトニックネットワークの融合をシステム、ネットワークそしてアプリケーションにわたって研究しています。最近、クラウドネットワークや、スマートネットワーク、IoTのトレードネットワーク技術を研究しています。

This laboratory is focusing on an Internet backbone network architecture based on photonic network. Photonic network technology is relaxing restriction of bandwidth and distance. Therefore, we can use any function in all over the world by just connecting over photonic. To meet this effect, we are starting to research on combination of IoT, cloud network and network robot. My lab is one of the CoE in US/Japan joint research.

連携を希望するテーマ

自動運転プラットフォームの構築
Autonomous Vehicle Control System

自動運転をサポートするM2Mプラットフォームを開発している。カメラを用いた画像認識、行動予測、低遅延ワイヤレスアクセス等の技術開発および三輪バイクの姿勢制御、自動搬送システム技術の研究開発を行なっている。具体的にはデータセンタとエッジコンピュータを連携させ、周辺のセンサー情報等を活用しながら、高度な走行を行なえるプラットフォームの開発である。特に、遅延時間を保障しながら、信頼性の高いインフラを実現している。

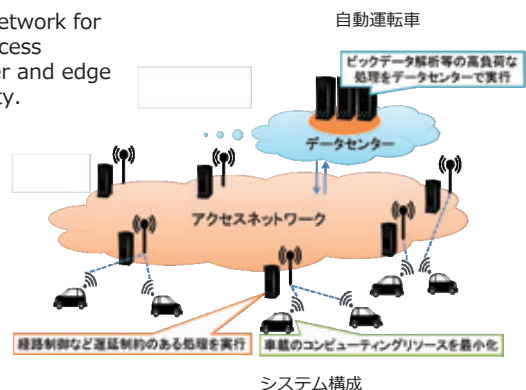
Autonomous Driving Vehicle is key future technology. We develop control network for AD Vehicle. The new technologies for this are video recognition, wireless access network and mechanical system. The control is realized by cloud data center and edge computer. It is required real-time operation with delay tolerant and reliability.

製品化・事業化イメージ

- 自動運転プラットフォーム (シェアリングカー、自動タクシー)
 - 自動配送システム (宅配やデリバリー)
- 特に、スマートシティ実現の画像認識技術、AI技術、さらには、メカニカルの技術を行ないたい

関連する知的財産

- 自動運転ネットワーク、配送システム…他 国内特許 (Pending)



研究室HP : <http://www.yamanaka.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : yamanaka@ics.keio.ac.jp



教授
斎藤 英雄
サイトウ ヒデオ
博士 (工学)
Professor
SAITO, Hideo
Ph.D.

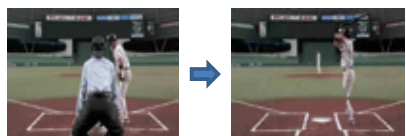
カメラ等により撮影された対象の形状や意味等を計測・認識するためのコンピュータビジョン (CV) の研究を行っています。さらにCVを仮想現実・拡張現実・複合現実技術等に適用するための映像生成や、人工知能のための知識処理に応用する研究等も進めています。
This laboratory's research topic is computer vision (CV): a technique to recognize and understand object scenes contained in images. Based on CV, we perform research on virtual reality, augmented reality, mixed reality, image sensing, and pattern recognition, aiming to realize next generation visual media and knowledge processing for artificial intelligence.

連携を希望するテーマ

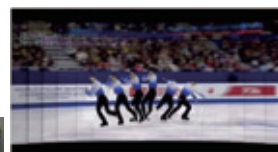
カメラによるセンシング/認識技術とその応用

Sensing/Recognition via image information and its applications

- 多視点画像・移動カメラによる3Dセンシングと拡張現実可視化技術
- 3D形状からの物体認識・識別
- 異種・大量カメラの統合利用による任意時空間センシング
- 3D sensing and augmented visualization using multiple viewpoint images
- Object recognition/classification via 3D shape information
- Free temporal and spatial sensing by integrating a large amount of different type cameras



多視点カメラによる自由視点映像生成の応用例
審判とキャッチャーを透視して観戦



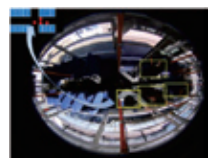
移動カメラシーケンスからの
ストロボ画像生成例

製品化・事業化イメージ

- スポーツ観戦への自由視点映像/拡張現実映像の利用
- ロボットの自律的作業のための物体認識
- 次世代交通システムのための3Dセンシング
- スマホカメラによる日常の人間活動・機能・構造センシング



移動手持ちカメラ画像列からの3D形状復元と
物体認識の同時実行とそれに基づく隠蔽領域可視化



バス車内監視
乗客の位置検出

連携の実績

- 拡張現実感システムのための画像センシング
- 工業部品の傷検出
- 3D表面温度マップの生成による環境センシング
- カメラによる車両の周辺監視・室内監視
- 車載カメラによる高精度車両自己位置推定

研究室HP : <http://www.hvrl.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : hs@keio.jp



教授
大槻 知明
オオツキ トモアキ
博士 (工学)
Professor
OTSUKI, Tomoaki
Ph.D.

高品質で自由度の高い無線通信の実現に必要な各種要素技術 (通信理論、時空間信号処理、符号理論等) について研究しています。また、カメラを用いずに人の状態・行動を検出できる新しいセンサなど、見守り・セキュリティについても研究しています。Twitterなどのソーシャルネットワーク解析やブロックチェーンなどの研究もしています。

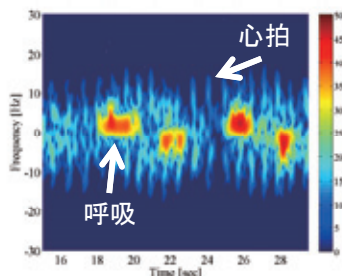
This laboratory focuses on fundamental techniques to realize wireless communications with high-quality and high-degree of freedom, such as communication theory, space-time signal processing, coding theory and so on. Sensors that can detect human state and its movement without camera, applicable to monitoring and security, are also current research topics. We are also doing research on social network analysis and block chain.

連携を希望するテーマ

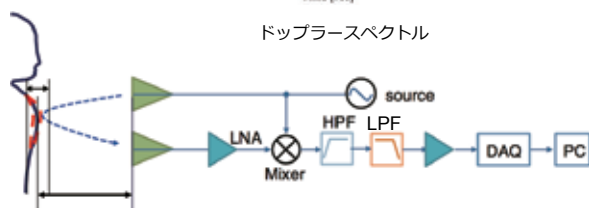
非接触生体信号検出・見守り技術、ソーシャルネットワーク解析

Noncontact Vital Signal Detection and Monitoring Techniques, Social Network Analysis

- 非接触心拍信号検出・非接触瞬き検出
- アレーセンサを用いた行動検出
- 低解像度赤外線センサアレーを用いた行動検出
- SNSからの感情抽出
- ブロックチェーン
- Noncontact heartbeat and blink detection
- Activity recognition by array sensor
- Activity recognition by low-resolution infrared sensor array
- Sentiment analysis of SNS
- Block chain
- 車の運転者状態検知
- 高齢者の見守り
- SNSやブログ、コメントから嗜好・人気調査
- 物品管理・追跡



ドップラースペクトル



非接触生体信号検出

連携の実績

- JSTプロジェクトや多数の企業との連携経験有り
- 知財有り

研究室HP : <http://www.ohtsuki.ics.keio.ac.jp/index.html>

メールアドレス : ohtsuki@ics.keio.ac.jp



教授
山崎 信行
ヤマサキ ノブユキ
博士 (工学)
Professor
YAMASAKI, Nobuyuki
Ph.D.

組込みリアルタイムシステム/リアルタイム処理・通信/コンピュータアーキテクチャ/
並列分散処理/システムLSI/オペレーティングシステム/ロボティクス

「組込みリアルタイム」をキーワードに、プロセッサアーキテクチャ、ネットワークアーキテクチャ、並列分散処理、オペレーティングシステム、ネットワークミドルウェア、システムLSI、ロボティクス等の研究を幅広く行っています。マルチスレッディング機構を有した高機能・高性能な分散リアルタイム処理用プロセッサ(RMT Processor)等の研究開発を行っています。特にResponsive Linkはリアルタイム通信における国際(ISO/IEC)標準となっています。Our laboratory focuses on real-time processor architecture, network architecture, parallel/distributed processing, operating systems, network middleware, system-on-chip, and robotics. We have been researching and developing the Responsive Multi-Threaded Processor (RMTP) for distributed real-time systems. Especially Responsive Link for real-time communications has been standardized at ISO/IEC.

連携を希望するテーマ

組込みリアルタイムシステム

Embedded Real-Time Systems

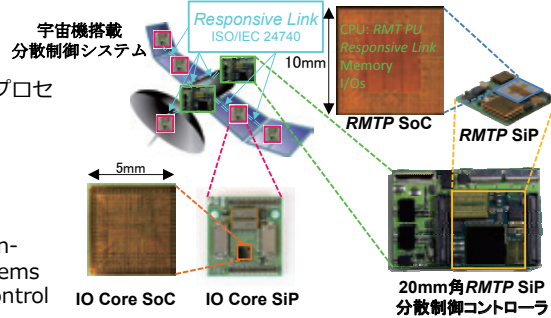
- 分散リアルタイム制御に必要なすべての機能を集積したマイクロプロセッサ/SoC/SiP: Responsive Multithreaded Processor (RMTP)
- リアルタイム実行: 優先度付きSMT (8スレッド同時実行)
- 実行スレッドの速度制御: IPC (Instruction Per Clock) 制御機構
- リアルタイム通信 Responsive Link
- 分散リアルタイムオペレーティングシステム
- Responsive Multithreaded Processor (RMTP)/SoC (System-on-Chip)/SiP (System-in-Package) for distributed real-time systems
- Thread velocity control: IPC (Instructions Per Clock cycle) control
- Responsive Link for real-time communications
- Distributed Real-Time Operating Systems

製品化・事業化イメージ

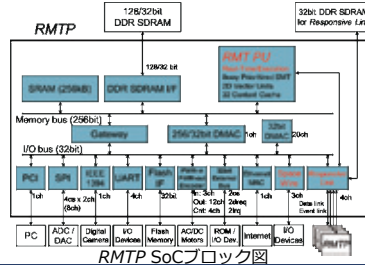
- ロボット等の高精度制御
- 宇宙機/航空機/自動車等の分散制御
- IoT機器等の組込み機器制御

連携の実績

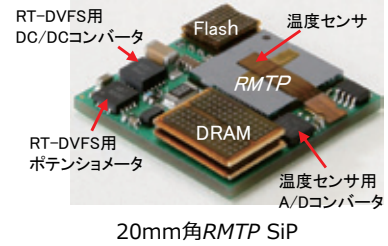
- 多数の企業との共同研究の実績あり
- 多くの知財あり



分散制御の例: 宇宙機搭載分散制御システム



RMTP SoCブロック図



20mm角RMTP SiP

研究室HP : <http://www.ny.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : yamasaki@ny.ics.keio.ac.jp



准教授
松谷 宏紀
マツタニ ヒロキ
博士 (工学)
Associate Professor
MATSUTANI, Hiroki
Ph.D.

計算機ネットワーク/計算機アーキテクチャ/ビッグデータ

我々の身の回りには多数の計算機が存在し、ネットワークを介して協調動作している。我々は、結合網を要素技術として、スパコン向けネットワーク、データセンターネットワーク、チップ内・間ネットワークを研究している。また、ビッグデータ利活用のために構造型ストレージとネットワークを密結合したハードウェアの開発にも力を入れている。

Interconnection networks that connect computational elements are used in digital systems of all sizes and types. Our research topics cover various on-chip and off-chip interconnection networks, ranging from large-scale high-performance computer networks to on-chip micro networks that connect many processing elements on a chip. We are also focusing on database accelerator that tightly integrates structured storages and network processing for Big data.

連携を希望するテーマ

大量データを素早く処理するディープラーニング基盤、工場ビッグデータ利活用

Deep Learning Framework for Fast and Big Data Processing;
Big Data in Manufacturing

- バッチ処理とストリーム処理を結合したビッグデータ処理基盤 (図1)
- ディープラーニングとオンライン学習を結合した機械学習基盤 (図1)
- データベース、バッチ処理、ストリーム処理、メッセージキュー、RPC、機械学習アルゴリズムの高性能化 (図2)
- FPGAによる10G/40G/100Gネットワーク処理 (図2)
- Blockchain/Bitcoin技術
- Big Data Processing Combining Batch and Stream Processing
- Machine Learning Combining Deep Learning and Sequential Learning
- Acceleration of Database, Batch Processing, Stream Processing, Message Queue, RPC, and Machine Learning Algorithms
- 10G/40G/100G Network Processing Using FPGAs
- Blockchain/Bitcoin Technologies

製品化・事業化イメージ

- 工場における製造ラインの故障検知、故障予知の自動化
- 見守りやセキュリティにおける異常検知、侵入検知の自動化

連携の実績

- 工場ビッグデータ利活用のための機械学習基盤
- FPGAやGPUを用いたデータ処理の高性能化

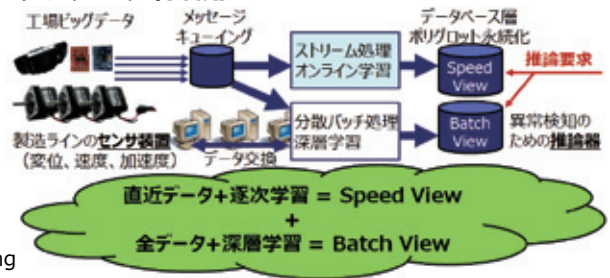


図1 バッチ処理とストリーム処理を結合したディープラーニング基盤

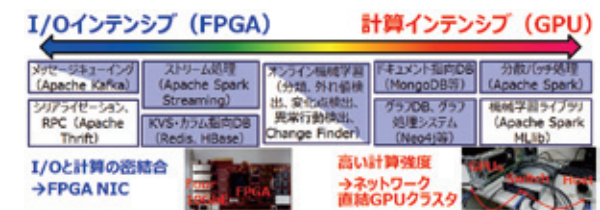


図2 FPGAやGPUを用いたビッグデータ処理基盤の高性能化

研究室HP : <http://www.arc.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : matutani@ics.keio.ac.jp



専任講師

金子 晋丈

カネコ クニタケ
博士 (情報理工学)

Assistant Professor
KANEKO, Kunitake
Ph.D.

アプリケーション指向ネットワークング/コンテンツネットワークング/
デジタルアーカイブズ/デジタルミュージアム/デジタルシネマ

これからの情報サービスは、数・量ともに際限なく増え続けるコンテンツやデータを相手にしなくてはならない。そこで、コンテンツやデータのネットワーク化を主たる研究テーマとし、より利用者個人個人や内容に踏み込んだ情報サービスの展開を目指しアプリケーションやサービスの視点を持って研究している。

We need to manage and utilize the contents or data growing unlimitedly in terms of the number and volume for the next generation information services. Our research topic focuses on networking of contents and data with application oriented viewpoints to realize personalized and content specific information services.

連携を希望するテーマ

次世代のコンテンツサービスを支える技術

Technologies for next generation content services

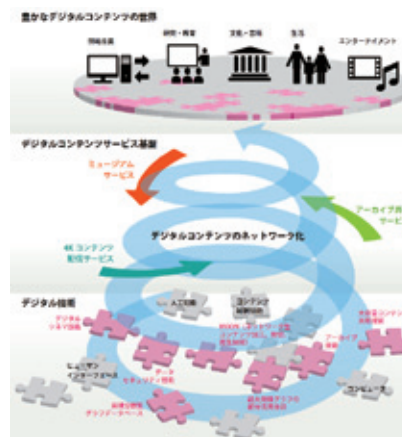
- 個人の嗜好や経験に基づいた高品質なデジタル情報サービスのネットワークを介した提供に関する技術
- デジタルコンテンツの利活用を促進するコンテンツネットワークの構成方法、デジタルアーカイブズの構成方法、およびそれらのアプリケーションサービスの構成方法に関する技術
- これまでにないサービスアプリケーションの実現を支援するネットワーク基盤技術、サービス基盤技術
- 大容量高品質コンテンツの流通技術
- Personalized and content specific information services based on networking of contents and data
- Design of content network, networked-digital archives, new application services
- Computing or networking technologies for content/data oriented services
- High quality large volume content distribution and delivery

製品化・事業化イメージ

- 米国大手の情報サービスでは達成されないパーソナライズ・専門化された情報サービスの実現
- アーカイブコンテンツの多面的利用の促進が望まれるデジタルの教育環境・博物館・美術館の実現

連携の実績

- 4K等の映像配信に関する共同研究
- デジタルシネマ技術に関する共同研究



デジタルコンテンツサービス基盤の構築

研究室HP : <http://www.inl.ics.keio.ac.jp/>

メールアドレス : kaneko@ics.keio.ac.jp



助教

杉浦 裕太

スギウラ ユウタ
博士 (メディアデザイン学)

Research Associate
SUGIURA, Yuta
Ph.D. in Media Design

ライフスタイルコンピューティング/実世界インタフェース/デジタルヒューマン

メディアデザイン研究科で博士課程を修了した後、産業技術総合研究所を経て情報工学科へ赴任して参りました。日常に溶け込む人間密着型インタフェースとデジタルヒューマン技術を基盤とした、生活者の膨大な身体行動情報の収集・モデル化に基づくサービス設計と、生活者への介入によるライフスタイル革新を目指します。

I received a Ph.D from the Graduated School of Media Design at Keio in 2013. Before joining Department of Information and Computer Science as research associate, I worked at National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST). My research theme is Lifestyle Innovation through creating novel services from collected and modeled Human-Data by ubiquitously blending Real World Interface and Digital Human technologies into our everyday environment.

連携を希望するテーマ

生活に溶け込むIoTとバーチャルリアリティによる共創支援

Real-world user interface and virtual reality for collaborative design

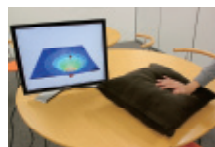
- 日用品に組込型のユーザインタフェースの開発
- デジタルヒューマン技術による人間復元技術
- セルフリハビリテーションの支援基盤
- バーチャルリアリティ技術を用いた共創環境の構築
- Real-world user interface for ubiquitous Service
- Human reconstruction with digital human technology
- Platform for self-rehabilitation system
- Virtual reality system for collaborative design

製品化・事業化イメージ

- 物体への組込を前提としたIoTセンサの開発
- 人間運動復元技術による製品設計やマーケティング調査
- IoT技術を活用したリハビリテーション支援
- バーチャルリアリティ環境を使った店舗空間の設計

連携の実績

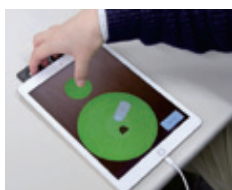
- 生活用品、自動二輪車、ウェアラブル機器会社など、ベンチャーを含めた企業数社との連携実績



FuwaFuwa: クッション型センサ



Wrap & Sense: バンドタイプセンサによる把持姿勢復元



手根管症候群患者へのリハビリ支援アプリケーション



Dollhouse VR: 協調的に空間レイアウトを検討できるシステム

メールアドレス : sugiura@ics.keio.ac.jp



教授
榎原 康文
サカキバラ ヤスブミ
博士 (理学)
Professor
SAKAKIBARA, Yasubumi
Doctor of Science

バイオインフォマティクス/がんゲノム解析/
バーチャルスクリーニング/人工知能/計算機科学

コンピュータ科学の手法を駆使して生命現象を解明するバイオインフォマティクスの研究を行っています。とくに、発がんにおけるゲノム変異解析や生命科学ビッグデータを解析する研究に集中して取り組んでいます。また、人工知能の技術を活用して医療診断を自動で行うシステムの開発も行っています。

This laboratory focuses on bioinformatics in which computer science methods are used to analyze biological sequences such as DNA sequences and proteins. Recent activities include cancer genome analysis using next-generation sequencer and bio-medical big-data analysis. Other topic is development of a question-answering program that automatically answers for the medical diagnosis.

連携を希望するテーマ

医療自動診断システムの構築

Construction of a question-answering program that automatically answers the medical diagnosis

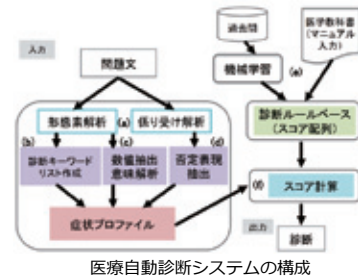
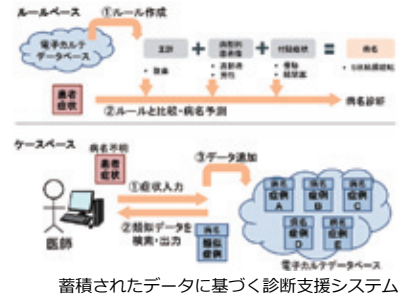
- 電子カルテに記述された内容から、患者の情報を適切に読み取り、そこから考えられる病名候補を予測するシステムの構築
- 医師国家試験に合格する自動解答プログラムを開発することにより、少なくとも研修医と同等の知識と診断能力を備えた人工知能を実現
- develop a system to make a medical diagnosis according to the contents recorded in the electronic medical data and the appropriate patient information

製品化・事業化イメージ

- 個人診療録から個人に特化した診断ルールを学習機能で獲得し蓄積することにより、一人に一台専用の究極の「かかりつけ医」という人工知能技術の開発
- 医療診断ミスの防止を自動化するために必要とされる情報技術の開発

関連する知的財産

- 特許出願：特願2016-051263
「診断処理装置、診断処理システム、サーバ、端末装置、診断処理方法及びプログラム」



研究室HP : <http://www.dna.bio.keio.ac.jp/>

メールアドレス : yasu@bio.keio.ac.jp



教授
土居 信英
DOI ノブヒデ
博士 (地球環境科学)
Professor
DOI, Nobuhide
Ph.D.

進化分子工学/プロテオミクス/合成生物学

専門は分子生物学。タンパク質を軸とした新しいバイオテクノロジーを創出し、そのオリジナルな技術を生命の理解と制御に役立てたい。現在のテーマは、進化学による医療分野や環境分野に役立つ新しいタンパク質の創出と、生命の起源・進化の実験的証明、ポストゲノム時代のタンパク質相互作用の網羅的解析技術の開発。

This laboratory focuses on the biotechnology of macromolecules, especially proteins, used to develop new methodologies for solving various biological problems that are resistant to conventional analytical approaches. Also studied is the development of new methods for in vitro selection and directed evolution of proteins (therapeutic antibodies and environmental enzymes), evolutionary constructive approach for studying origin and evolution of life, and high-throughput screening of protein interactions.

連携を希望するテーマ

医療・環境エネルギー分野に役立つ人工タンパク質の創出

Creation of Artificial Proteins for Medicinal, Environmental and Energy Applications

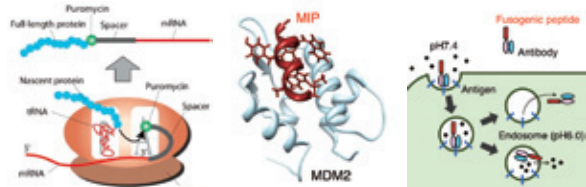
- 独自のタンパク質スクリーニング技術の開発
- バイオ医薬 (抗体およびペプチド) の配列最適化
- バイオ医薬の細胞内デリバリーシステムの開発
- バイオ電池のための酸化還元酵素の探索および改良
- Novel technologies for high-throughput screening of proteins
- Optimization of therapeutic antibodies and peptides
- Intracellular delivery of biopharmaceutical drugs
- Screening of oxidoreductases for biofuel cells

製品化・事業化イメージ

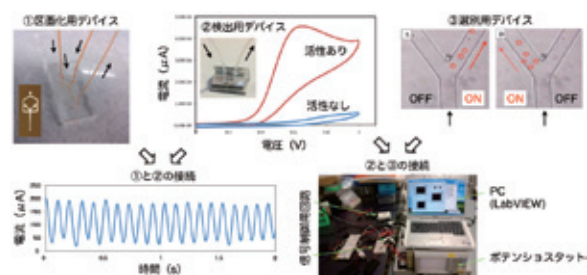
- 抗体医薬の親和性および安定性の向上、膜透過性などの新機能付与
- 産業用酵素の活性および安定性の向上

連携の実績

- 新規の膜透過促進ペプチドとpH応答性低分子抗体とを組み合わせた細胞選択的DDSの開発
- 再生医療等に有用な新規タンパク質の開発



バイオ医薬の開発 (左) タンパク質と遺伝子(mRNA)を連結する分子技術 (中) 分子標的ペプチド創薬 (右) バイオ医薬のデリバリーシステム



3つのマイクロ流体デバイスによる酸化還元酵素のスクリーニングシステム

研究室HP : <https://sites.google.com/site/biomoleng12/home>

メールアドレス : doi@bio.keio.ac.jp

研究者索引 (50 音順)

青木 義満	教授	電子工学科	7
青山 英樹	教授	システムデザイン工学科	21
朝倉 浩一	教授	応用化学科	9
安藤 景太	専任講師	機械工学科	6
飯島 正	専任講師	管理工学科	17
石上 玄也	准教授	機械工学科	5
稲田 周平	准教授	管理工学科	16
大槻 知明	教授	情報工学科	27
小川 邦康	准教授	機械工学科	3
荻原 直道	教授	機械工学科	2
奥田 知明	准教授	応用化学科	11
尾上 弘晃	准教授	機械工学科	5
桂 誠一郎	准教授	システムデザイン工学科	22
金子 晋丈	専任講師	情報工学科	29
神原 陽一	准教授	物理情報工学科	13
久保 亮吾	准教授	電子工学科	8
黒田 忠広	教授	電子工学科	7
小池 康博	教授	物理情報工学科	12
近藤 寛	教授	化学科	20
斎藤 英雄	教授	情報工学科	27
榊原 康文	教授	生命情報学科	30
笹瀬 巖	教授	情報工学科	25
佐々田 博之	教授	物理学科	18
白鳥 世明	教授	物理情報工学科	12
杉浦 裕太	助教	情報工学科	29
須藤 亮	准教授	システムデザイン工学科	24
関口 康爾	専任講師	物理学科	19
高野 直樹	教授	機械工学科	1
田口 良広	准教授	システムデザイン工学科	23
竹村 研治郎	准教授	機械工学科	3
田中 茂	教授	応用化学科	9
チッターリオ・ダニエル	教授	応用化学科	10
千葉 文野	専任講師	物理学科	19
塚田 孝祐	准教授	物理情報工学科	14
寺岡 文男	教授	情報工学科	25
土居 信英	教授	生命情報学科	30
中嶋 敦	教授	化学科	20
中野 誠彦	准教授	電子工学科	8
滑川 徹	教授	システムデザイン工学科	22
西 宏章	教授	システムデザイン工学科	21
野崎 貴裕	助教	システムデザイン工学科	24
萩原 将文	教授	情報工学科	26
藤原 忍	教授	応用化学科	10
堀 豊	助教	物理情報工学科	14
前田 知貴	助教	機械工学科	6
牧 英之	准教授	物理情報工学科	13
松浦 峻	専任講師	管理工学科	17
松川 弘明	教授	管理工学科	15
松谷 宏紀	准教授	情報工学科	28
松林 伸生	教授	管理工学科	16
三木 則尚	教授	機械工学科	2
満倉 靖恵	准教授	システムデザイン工学科	23
宮田 昌悟	准教授	機械工学科	4
山口 高平	教授	管理工学科	15
山崎 信行	教授	情報工学科	28
山中 直明	教授	情報工学科	26
閻 紀旺	教授	機械工学科	1
横森 剛	准教授	機械工学科	4
渡邊 紳一	准教授	物理学科	18



 慶應義塾先端科学技術研究センター
Keio Leading-edge Laboratory of Science and Technology

〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1 創想館 3 階

TEL: 045-566-1794 FAX: 045-566-1436

E-mail: staff@kll.keio.ac.jp

URL: <http://www.kll.keio.ac.jp/index.html>